

育教の兒幼

號二第 號月二 春八十三第



東京女子高等師範学校内
日本幼稚園協会

廣島文理科大學教授

文學博士久保良英著

**菊判洋綴紙數三百頁
定價金二圓八十錢**

送斜廿一錢

新刊児童の精神構造と指導

本書は心理學上より兒童の精神構造を科學的に解剖し、體係を立てて以て兒童教育の根本義を確立せるものである。兒童の教養は次期の國家の消長を決するものであるが、特に現今我國は非常の時局に立ち何事にも國民總和の力を以て當るべきの秋である。著者はこゝに大に意を以て當るべきの秋である。著者はこゝに大に意を以て當るべきの秋である。左に其大綱を擧ぐれば……一幼兒の精神構造 二玩具の選び方 三言語と文字 七美の情操陶冶 八道德教育

九宗教教育……一般教育家は勿論一般識者の必讀を望む。

て兒童教養の根本義と確立せるに現今我國は非常の時局に立ちまする所あつて、世の教育家父兄深奥なる學問と豊富なる経験と二玩具の選び方と三言語と文字七美の情操陶冶と八道徳教育

心理學要說

貢百四數紙制菊
錢十五圓二價定
錢一十二料送

教育の基礎となる新しい心理學說

文檢要書

心理學の問題は嘗ての標榜語。今後詰め立候る。之は、既に於て重大なる進歩と新らしい分野の開拓とを意味するもので、當つて著者は本書に於て單なる紹介や學説の羅列をさけ、専ら思論を説き見透しを與へようとしてゐる。しかして全卷を通じて一貫する教養家特に文檢受験者に適したものであることを信ずる尙著者神生活と現代の心理學の成績に基づいて叙説しようとしたて本てゐるが、此の意味に於て又一般知識人の必讀を俟つものである。

七二四八三京東瞽振
攀五二三三込牛話電

生徒募集集

本科生四十名 研究科生若干名

創立以來廿三年。

大正五年東京市麹町區に創立。

願書受付三月二十日迄規則書は參錢切手
封入の上申込まれよ。

昭和二年武藏野の中なる現在地に新築、
附近に森あり、野あり、川ありて四時自
然の恩恵を受け、本校の特色とする自然
觀察、博物採集、圖畫寫生、自然物應用
の手工等材料豊富なり。

玉成保姫養成所

所

長

ソファヤ・アラベラ・アルウ井ン

東京市杉並區西高井戸一丁目一三三
省線 西荻窪下車直南約五丁

保 姆 生 徒 募 集

一、募 集 人 員 五 十 名

一、出 願 期 限 二 月 一 日 ヨリ受付

規則及入學案内ハ三錢切手ヲ同封シテ請求セラル、カ又ハ山手線
目白驛前目白幼稚園ニ就キ承合セラレタシ

淀橋區下落合三丁目一、三八八

東 京 目 白 保 姆 學 校

電 話 落 合 長 崎 二 五 五 九 番

一、定員四十名

一、保姆資格を得

一、締切三月二十日

一、寮舎の設備あり

佛教保育保姆養成所

協會

東京市中野區宮前四八 電話中野五八七〇番

一、全國佛教幼稚園聯合の保姆養成機關なり

一、帝都名刹寶仙寺境内に同寺經營の中野高等女學校並感應幼稚園
ご共に併設せられ環境の清澄ご模範的優秀設備は本所の誇りで
ある

一、交通は省線新宿驛より五分 寶仙寺前下車

詳細は學則請求を乞ふ

生徒募集

募集人員百名

願書締切三月末日

◇無試験検定ニヨリ保母免許状ヲ受クル特典アリ

◇寄宿舎ノ設備アリ

東京市杉並區高圓寺三ノ二九八

東京保母専修學校

生徒募集

募集人員

七拾名

出願期限

自二月一日
至三月末日

○入學手續ヲ簡易ニ改メタリ

○入學試験ヲ要セズ 提出書類ニヨリ詮衡ノ上直チニ許可書ヲ送付ス
○無試験検定ニヨリ保姆免許狀ヲ受クル特典アリ

○寄宿舎ノ設備アリ

規則書入學案内ハ三錢切手封入申込マルベシ

東京市品川區大井原町五二〇八(省線大井町驛ヨリ城南バス
ニテ原停留場下車二分)

東京昭和保姆養成所

所長

土川

五

郎

顧問兼講師
東京女子高等
学校教授

倉橋惣三

平安女學院保育科

修業年限二箇年・保姆及母として
の學習、實習、研究

(入學案内要三錢切手)

第一學年 參拾名募集

京都市上京區下立賣通烏丸西入

保姆・小學教員無試驗檢定資格有

平安女學院

なほ英文科・家政科・家庭科及豫科・平安幼稚園・平安高等女學校あり

生徒募集

募集人員 約五十名
出願期日 願書締切、四月五日限

- 佛教主義ニ依ル保姆養成機關
- 修業年限 一年
- 無試験検定ニ依ル保姆免許状ヲ受クル特典アリ
- 寄宿舎ノ設備アリ

規則書三錢切手封入申込ノコト

京都市東山七條

本派本願寺保姆養成所

尙 京都女子高等専門學校、京都高等女學校、京都裁縫女學校アリ

新刊

倉橋惣三作詞
小松耕輔作曲

戸倉ハル振付

日本の旗 日の丸の旗

色刷表紙四六倍判音譜及び振付
説明 定價 送料共 一冊 金蔵拾錢
前金(振替或は參錢郵券)を添へ
冊數及び送先を明記申込次第直
に送本す

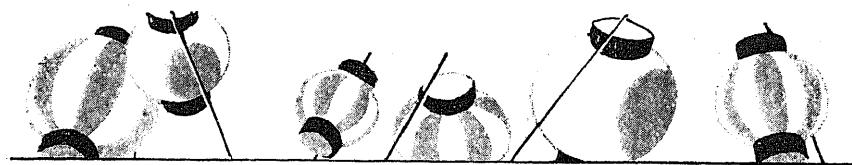
此の時局、幼兒兒童に何を唱はせませうか。どんな遊戯をさせませうか。本會は、今日此の新しい唱歌と遊戯とを全國の幼兒兒童の前に贈り得ることを最も欣快とするのであります。願はくは、皆さまのお力添へを俟つて、幼稚園に、學校に、家庭に、街頭に、津々浦々に、此の唱歌遊戯の流布を見るに至り得んことを。之れが本會の遠慮のない望みであります。

尙、此の刊行によつて得た金額は、國防費に獻金致したく、既に金百圓を獻金致しました。どうぞ此の趣旨にも御共鳴下さつて、尙ほ一冊でも多くお購求下さい。又廣くお勧め願ひます。一冊の御購買は即ち同時に國防獻金となるのであります。若し各幼稚園が此の意味に基いて、取りまとめて御註文下さるようのことまでして頂ければ、此の上ない幸であります。そのために表紙も美しい色刷りの家庭向きにして置きました。右本會の二つの希望を御協賛願ひます。

發行所

日本幼稚園協會

東京市小石川區大塚町三十五
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
振替口座東京一七二六六番



號二 第 教育の児幼 卷八十三第

—(次) 目—

口 繪

卷頭 御國の子さも

幼稚園に於ける健康教育

子供の環境(四)

子供叢書列傳(四)

おひな様

戦争を描いた昔の隨意畫

猫と彼

あひな様

フレーベル賞幼兒手技審査發表

フレーベル賞手技審査に就て

審査員諸氏の御意見御感想

手技の創作懸賞募集について

此後の幼兒の手技は用材を擴げて考へたい

幼兒に適するさいふことに就て

手技審査雑感

手技作品募集に就いて

フレーベル賞入選手技

粘土おしゑ

萬燈

雪だるま、雪兔

時局の保育

時局の影響を各地幼稚園に聞く

大阪市立久寶幼稚園

再び豊田芙雄子先生をお訪ねして

可愛い、幼兒畫の手拭

橋 憲 謙 (三一)

津 下 俊 郎 (三一)

野 山 及 川 (三一)

石 井 庄 よ し こ (三一)

川 司 元 (三一)

山 下 俊 郎 (三一)

新 庄 よ し こ (三一)

久 米 久 (三一)

山 下 俊 郎 (三一)

新 庄 よ し こ (三一)

久 米 久 (三一)

山 下 俊 郎 (三一)

新 庄 よ し こ (三一)

久 米 久 (三一)

山 下 俊 郎 (三一)

新 庄 よ し こ (三一)

久 米 久 (三一)

山 下 俊 郎 (三一)

新 庄 よ し こ (三一)

久 米 久 (三一)

山 下 俊 郎 (三一)

新 庄 よ し こ (三一)

久 米 久 (三一)

山 下 俊 郎 (三一)

新 庄 よ し こ (三一)

久 米 久 (三一)

山 下 俊 郎 (三一)

新 庄 よ し こ (三一)

久 米 久 (三一)

山 下 俊 郎 (三一)

新 庄 よ し こ (三一)

久 米 久 (三一)

山 下 俊 郎 (三一)

新 庄 よ し こ (三一)

久 米 久 (三一)

山 下 俊 郎 (三一)

新 庄 よ し こ (三一)

久 米 久 (三一)

山 下 俊 郎 (三一)

新 庄 よ し こ (三一)

久 米 久 (三一)

山 下 俊 郎 (三一)

新 庄 よ し こ (三一)

久 米 久 (三一)

ハイディーヨハンナスヒリ原作

津 田 芳 雄 譯 (三一)

(空)

(天)

第一回幼児童話募集

謹 告

株式會社フレーベル館創業三拾周年記念

保育研究資金による懸賞募集第三回

募集規定

應募作は幼児に適する童話たること。

主題、内容、長短は隨意。
わけても子供の生活を取り入れたもの、又各地の地方色、
の描き出されるものが望ましい。

幼稚園、託兒所保母諸君の自作たること。
〔舊作にてもよろし〕

應募篇數任意。

原稿紙にペン書のこと。
應募者は宿所、氏名、誌上署名隨意及び奉職園の名稱、
所在地を明記のこと。

日本幼稚園協會（東京市小石川區東京女子高等師範學校
附屬幼稚園内）童話募集掛宛のこと。

締切 昭和十三年二月末日

發表 昭和十三年六月十五日本會發行の「幼児の教育」誌上。
入選作は本誌に掲載し、賞状及賞金を贈呈します。

フレーベル賞

一等一名 金參拾圓 二等二名 金貳拾圓 三等二名 金拾圓
選外佳作拾貳名（賞品贈呈）

審査
(五十音順)

小川 未明氏 岸邊福雄氏 倉橋惣三氏

久留島武彦氏 新庄よしこ氏
原稿は一切返却しません。

尙御不明の點は往復はがきで本會童話募集掛宛お問合せ
下さい。

青柳美智代氏 朝原梅一氏 及川ふみ氏
兼信學氏 岸邊福雄氏 菊池ふじの氏
倉橋惣三氏 新庄よしこ氏 高崎能樹氏
田島真治氏 土川五郎氏 和田實氏

一金壹千五百圓也

保育研究資金

昭和十二年四月十二日

株式會社フレーベル館 社長

高市次郎

右御披露と共に、全國保育界諸賢が奮つて此の計畫に御賛
同御援助下さるやう切にお願ひいたします。

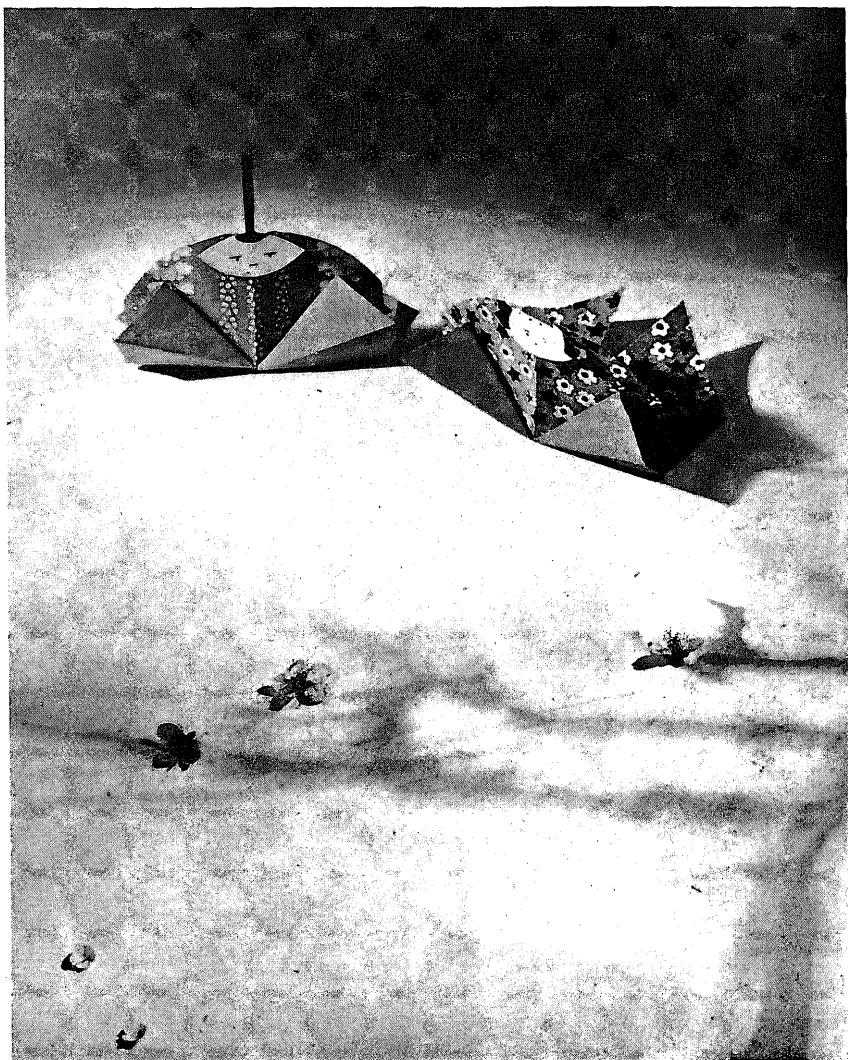
昭和十二年十二月

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日本幼稚園協會

實行委員（五十音順）

高崎能樹氏



句 節 の タ ム百

雛 紙 代 千

御國の子ども

昭和三十一年二月

御國の子ども

こゝに遊んでゐる子ども達は、一人々々がみんな、御國の子どものである。おろそかには出來ない御國の子どものである。

この子達はみんな成人して、それぐの擔ふべきものを擔ふて御國の人となるのである。或るものは大きいものを擔ふであらう。或るものは小さいものしか擔はないかも知れない。それぐの分であり、分かちて擔ひあふ御國への務めである。御國の務めに大小はあつても輕重はない。將來それを擔ふべき者に差別をつければならない。身體の強弱はあり、才能の優劣はあつても、御國の子どものに差別はない。

御國の子ども嬉々として集ふ。こゝは御國の子どもの園である。一日もおろそかにしてはならない御國の園である。

幼稚園に於ける健康教育

醫學博士 野 津 謙

世界各國の保健衛生は、世界大戰の終局を告げる共に、全然其姿を變へて現はれて來た。即ち、英、米、獨、佛、伊、蘇等は、相呼應して從來の治療醫學の兜を脱ぎ捨て、夫々國民の健康増進を目標として、醫學界も豫防醫學への道を辿るに至つたのである。

我國に於ても、昭和五年、米國ロックフェラー財團よりの申出による公衆衛生院の寄附が、内務省によつて承認せられたるを始めとして、徐々に、衛生方面への關心が高められて來たが、最近、陸軍省が壯丁検査の結果、不合格者の逐年増加する事を以て、國民體位低下しつゝありと見做し、國民の健康問題が重視せらるゝに到つた。

陸軍省のいふ所の不合格者は、都市に多く、然も、產業都市に著しく、田舎は都市に比較すれば妙いけれども、尙之を十年前と比較するに増加し、職業別には、學生に不合格者が多いといふのである。壯丁には、筋骨薄弱者、呼吸器疾患、近視眼等多く、又學童の身體検査統計によれば、身長、體重、胸圍は、少しづゝ増加してゐるけれども、齶齒、近視眼等が漸次増加の傾向がある。文明の進歩と共に、體力が低下することとは、常識で考へても了解出来る事で、都市には、都市型虛弱兒童が増加しつゝある。かかる状勢にある故に、近衛内閣は率先して、保健社會省を建設せんとして、明年早々實現の運びになることは、國家のために同慶に堪えない。其他、國民健康保険、保健所等、色々計畫せられつゝある事は、實

に愉快な事である。併し、如何なる施設が出来ても、之を直接運用するものは、醫師であつて、我國民體力向上には、六萬の醫師が結束して之に當るべきである。それには、治療醫學より豫防醫學への再教育が必要であつて、前述の公衆衛生院は、その意味に於て、重要である。唯この再教育は、理論のみにては不完全で、その實際を知らなければならぬ。内務省は、そのため、東京市京橋區を都市特別衛生地區に、又、埼玉縣所澤附近を農村特別衛生地區に指定して、其の實際を行はしめてゐる。私は昭和十年より、この京橋區に於ける保健館にて、學校衛生を擔當してゐる。而して、幼稚園の衛生は、學校衛生の一部であつて、之を積極的に實施するには、幼稚園の保母諸姉が、以上の現在の狀勢を認識して、健康教育の立場に立つて、幼稚園の健康教育を實施せらるべきである。

醫學の歴史を顧みる時、ヒボクラテスの偉業を等閑視する事は出來ぬ。彼の云つた「醫は自然の臣僕なり」は實に至言である。爾來、幾多の變遷を経、自然科學の勃興にあつて、藥物療法を主とした治療醫學の時代となつた。我國の醫學の歴史は、亦之と同様の歴史を経てゐるのである。細菌學より衛生學の發達となつたけれども、今日の衛生學は、急性傳染病豫防の域を脱せず、國家の醫業としては、甚だしく物足らなさを感じるものである。國家の醫業としては、何を爲さねばならないか。此の問題は改めて我々醫師として反省すべき事である。我々は、國民の病氣を治療し、傳染病を豫防し、尙進んで強い精神と強い肉體を造らねばならない。

幼稚園児、學齡兒童等すべて、學校に通ふ者に關する衛生を我々は學校衛生と稱してゐる。以上の考へ方によつて現在の學校衛生の動向を我々はよく注視するならば、最も憂ふべきは、學校或は幼稚園の病院化である。學校の病院化とは何か？學校は病人を治療する所ではない。病院が病人を治療する所であるので、學校に於ては兒童は益々強くならなければならぬのである。ツベルクリン反應、X線寫真等によつて、始めて結核の診斷が可能である事は我々のよく知つて居る

處である。然るに世間は體溫測定にて三十七度一分の微熱を以て、結核なりの診斷する者があるのである。而して教室に於て、徒らに體溫測定をして其の結果は只兒童に恐怖心を與へるのみに過ぎない。秋冬にかけて太陽を見るゝゝ北陸地方に於て、巨費を投じて太陽燈を購入する事は、或は合理的であらう。然し乍ら快晴多き土地に自然の日光を等閑視して人工太陽燈によらんとするが如きは考へねばならぬ。是等の例は未だ數多あるのである。教育者はその立場を忘れる事なく、健康教育を實施する事が最も望ましい。

幼稚園児の衛生に就てはその死」は如何なる状態にあるか、之が第一の問題である。昭和十年内閣統計局調査によればその概數は次の如くである。

第一表 昭和十年、内地

年齢	總死亡	急性傳染病	%	結核	%
3	12000	2600	1/5	400	1/30
4	8000	1800	1/4.5	400	1/20
5—9 (平均)	3400	460	17	400	1/8
10—14 (平均)	2000	90	1/20	500	1/4

各年齢の人口總數が出でるならば、大體回數の考へるならば、總死亡に對する病氣の割合は、二、四歳の急性傳染病より、十歳—十四歳に至りて結核に移行するといふ事になる。急性傳染病及び結核以外には左程問題になるものはないのである。

従つて、幼稚園児には、急性傳染病が重要問題である。幼稚園の急性傳染病に就ては、拙著「健康教育と學校傳染病」日本醫事新報、昭和十二年三月發行、第七五七號を參照されたい。又略々同様の内容にて、日本兒童學會雑誌「兒童研究」昭

和十二年三月號に、「東京市幼稚園兒麻疹罹患に就て」發表してゐる、

東京市立幼稚園に於ける罹病狀態は、殊にその中、學校傳染病に就て述べれば次の如くである。

第二表 幼稚園兒八種傳染病罹患率(百人ニツキ四ヶ年平均)

全 市	京橋區
麻 痹	一二・〇
水 痘	一三・〇
百 日 咳	五・〇
耳 下 腺 炎	五・五
	四・〇
	三・〇
	三・〇

全 市	京橋區
猩 紅 熱	〇・五
赤 痢 及 疫 痢	〇・四
チ フ テ リ ア	〇・二
腸 チ ブ ス	〇・二
	〇
	〇

麻疹では中々死亡しないと一般に考へられて居るが内務省統計によれば、麻疹の死亡は等閑視出來ぬのである。

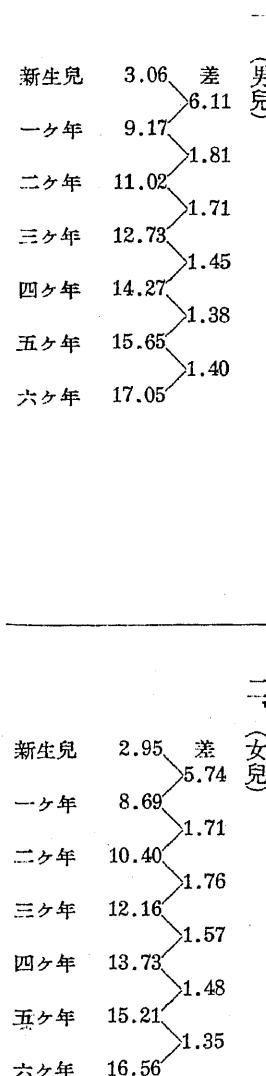
第三表 傳染病による十ヶ年平均死亡數

麻 痹	猩 紅 熱
赤 痢 及 疫 痢	一一七五
チ ブ ス 及 パ ラ チ ブ ス	一〇九三六
百 日 咳	九九四五
チ フ テ リ ア	九五二七
流 行 性 腦 脊 鏡 膜 炎	四〇四一
	三六一
猩 紅 熱	二四一
疫 痢	一一七
チ ブ ス	五二
癲 痢 チ ブ ス	二
ベ ス ト	一

麻疹の流行は、東京に於ては、昭和六、八、十、十二年ご隔年に来る。然も五月を最高としてゐるので、東京に於ける麻疹豫防は、殊に虚弱園児に對して可能である。警視廳に於て獎勵してゐる成人血清注射の如きはその一例である。

次に、幼児の發育に就て、知らなければならぬ。幼児の發育に就ては、身長、體重、胸圍等色々あるけれども、體重は最も信頼するに足るものと考へらる。東大小兒科吉永氏の統計による、各年齢による體重平均を示せば次の如くである。

第四表 幼児體重平均表



幼稚園児時代の四、五、六年は、大體に於て毎年一公斤乃至二公斤の増加を示すものである。即ち比較的發育の割合はなる時代といふ事が出来る。

以上の様な事は、幼稚園の健康教育實施にはその基礎知識として保姆諸姉に了解して戴きたい事柄である。

學校や幼稚園の母の會等に出席して感ずる事は、母親の兒童の教育に就ての目標が低い事である。多くの母親は、唯、病氣にならないで學校を卒業してくれればよいといふ頗る消極的の考へ方である。健康にも色々度合がある。私は健康教育の健康は、最も程度の高い、打つても叩いてもびくともせぬ程度の健康を目標とする事を希望する。

幼稚園の衛生は、園長、園醫、保姆、衛生婦等によつて實施せらるべきである。是等の職員が夫々、自分の立場に立て、盡され、然も、各々の間に互に連絡協調せられた時に始めて、その幼稚園の健康管理がよく行はれてゐるといはれ

る。而して、其等の仕事は、すべて、學校衛生學の示す所に従つてなさるべきである。然らば、この幼稚園に於ける衛生と幼稚園の健康教育との關係如何？健康教育は、主として教育的立場に立つて、健康に要する教育が行はれる、従つて、幼稚園に於ては、保姆が先づ第一の責任者であり、園醫、衛生婦等は之を補助すべきものである。勿論その學的根據は、學校衛生學によらなければならぬ。換言すれば、幼稚園の健康教育とは、學校衛生學の中より、教育的に利用し得るもの全部、保姆が中心となつて、引張り出して、之に従つて、健康習慣、健康態度を養成し、精神的並びに身體的健康を獲得せしむる所の系統的プログラムである。

幼稚園の健康教育の方針に就ては、一般健康教育の方針と何等異なる所がない。今茲にその主なるものを列舉すれば次の如くである。

第一、國家的健康教育。日本精神による健康教育を意味するものである。諸外國の長所は勿論之を取るの雅量が必要であるが、唯その形式の模倣は、飽く迄排斥すべきである。國家的健康教育に於ては、尙、我國公衆衛生の缺陷、例へば、結核、乳兒死亡率の高いこと、消化器系傳染病、國民體力低下等の諸問題を念頭に於てやらなければならない。

第一、積極的

第二、精神的

第三、社會的

第四、鄉土的、幼稚園的、家族的

第五、個性的

第六、個性的

教育は個性的でなければならない。之は兒童心理に立脚する事を意味してゐる。併し、健康教育には個人の健康狀態を

考慮して、その健康狀態、その體質相應に之を實施する事が必要である。それには、勿論、醫師の教育者の協力が缺くべからざるものとなつてくる。個性に順應して始めて、積極的健康教育の實施を可能ならしむるのである。唯、スバルタ式教育として、我武者羅の鍛錬主義によつては、如何なる弊害を生ずるか火を見るより明らかである。我々は、飽く迄科學的根據に立つた健康教育の實施を渴望するのである。

由來、健康といへば、身體的の問題を考へられ勝ちである。併し、精神と身體とは離る可からざるものであつて、我々の健康教育は、寧ろ精神的健康教育に主力を注ぐべきである。双葉山の偉大なる體格は一部遺傳によるこゝを忘れてはならない。従つて偉大なる體格が健康教育の窮屈の目的ではない。

我國民は社會訓練の點に於ては未だ遺憾なる點がある。之は、公衆衛生の問題に迄、擴がるものであるから幼稚園に於ても、社會的健康教育として考慮せらるべきであらう。

郷土的、幼稚園的、家族的の問題も、頗る重要方針であつて、東京にて實施せられて居る事を直ちに農村に應用出來ぬ場合が多々ある事を忘れてはならない。其の土地の風俗習慣、傳統、氣候、產業、經濟等すべての環境を考慮に入れて健康教育の實施に迄運ぶべきであると思ふ。幼稚園にあつては、園長、園醫、保姆等によつて、多少その幼稚園に適する様に考へられなければならない。

以上の方針によつて、如何なる事を守つたらいゝか、之が健康教育の要素であつて、幼稚園の健康教育の要素として擧げられるのは次の八項目である。

一、體育(運動及び姿勢)

二、栄養

三、休息及び娛樂

四、日光、空氣、水及び土

五、服装及び清潔

六、安全及び救急

以上八項目に就て、その趣旨を簡単に述べれば次の如くである。

體育、子供は遊ぶものであるから、この遊びを體育と結び付けて、健康生活に必要な運動の習慣を養成することが必要である。唯この時代には、未だ骨骼は發達しないから、骨骼を固持する跳躍の如き運動は餘り奨励すべきでないことをせられてゐる。又持續的労働は不可、長時間起立せしむることもよくない。

栄養に就ては、小生著、「右文館發行、學校健康管理、栄養教育篇」を参考せられたい。郷土的、家族的の考慮が勿論必要であるが、栄養教育には、愉快な氣持で食卓に就くことを先づ第一にすべきである。我々のポスターを用ゐる栄養素の教授は、幼稚園にも應用し得ることと思ふ。

休息としては、睡眠を充分にとることが最も必要、幼児の疲勞状態を早く發見して、之に休息を與ふることは、學校兒童に就ては、教授衛生として重要視せらるべきが、園児に就ても同様ではあるまいか。

服装及清潔、服装は餘り厚着にならない様にする事が殊に都市兒童に注意すべきことで、清潔は、健康検査と同時に毎朝實施せらるべきである。清潔より公衆衛生に移りゆくことを幼稚園保姆諸姉も了解せられたい。

日光、空氣、水及土、は自然に關するものを茲に包含したので、都市兒童の健康増進に自然に接する事が頗る必要な事は、我々の體験によつて明らかである。

安全及救急、先づ安全に就ては安全教育なる系統案に従つて、幼稚園児のそれが確定せらるべきであるが、我國には、未だその研究が餘りない様である。自動車事故の益々増加する都市に於ては、事故豫防の系統案を作る事は急務であつ

七、精神衛生

八、個人及び社會の健康、疾病的豫防

て、然も、之は幼稚園児より行爲として實施せらるべきものである。救急は、既に、何れの幼稚園児に對しても適當に實施せられて居るであらう。

精神衛生、文明發達に伴ひ、精神病が増加する傾向がある。精神的健康を等閑視出来ない事は、健康教育の方針の際に述べた所であるが茲には、精神病の豫防、異常性格児の問題等を考慮に入れて、幼稚園の精神衛生が取り上げられるべきである。

個人及社會の健康、疾病的豫防、之は最後の結論であつて、疾病に關するものをその豫防として最後に持來りし事は統計的に見ても、病人なるものは、殊に幼児には左程多くないこ考へられるので、徒らに病氣を恐れる事からしむる考へによるものである。

健康教育と保育案、施設に就ては、健康教育實施上、遊び場とか、水呑み場、手洗場等を始め、學校衛生施設として必要なるものが同様に考慮せられねばならぬ。

定期的事項としては、毎朝の清潔、健康検査、毎月體重測定等が擧げられる。毎月體重測定に就ては、園児體重増加の季節的變化に於て、春には體重は餘り増加せず。天高く馬肥ゆる秋には最も多く増加する。夏休の間は、比較的よく増加するものである事等を了解して、毎月體重測定により、増加せざる時には、園醫の健康診斷を受けさせること、園児に發育に就て興味を持たせること等が考へられる。

年中行事には出来るだけ多くの健康問題を取り入れるかは頗る結構な事である。東京市京橋區鐵砲洲幼稚園の如き、此の點特に意を用ひてゐる。

左にその例を掲げる。

幼稚園年中行事案一覽表

左は市立鐵砲洲幼稚園に於て實施せる年中行事案で、表中上に○印あるものは健康に關係ある行事例です。

月 下 旬	四	上 旬
	中 旬	
○園外保育(植物園又は日比谷公園) ○歯牙抜去 ○お誕生會	○肝油服用開始 ○智能調査 ○花まつり ○身長體重胸圍測定 ○おべんたう始め(保育時間午後一時迄) ○昭憲皇太后御例祭 ○健康相談 ○交通安全週間 ○寄生蟲検査 ○歯ブラシ教練 ○母の會 ○歯科診断	○幼稚園だより發行 ○保育時間午前九時より十一時迄 ○神武天皇祭(休園)植樹祭 ○入園式 始業式
	○交換 ○夏季清潔法施行 ○端午の節句 ○小運動會 ○寄生蟲驅除 ○園外保育(豊島園又は動物園) ○體重測定 ○夏場所大相撲 ○健康相談 皮膚病の注意 ○父兄懇談會 保護者會總會 ○母の會 ○鐵砲洲稻荷神社參拜	○結核豫防週間 ○幼稚園だより發行 ○天長節 觀兵式 ○靖國神社例祭
月 中 旬	五	上 旬

	月	六	
	下旬	中旬	上旬
○幼稚園だより發行 お誕生會 ○幼稚園創立記念日 皇太后陛下御誕辰 幼稚園だより發行	○園外保育(有栖川宮記念公園) ○入梅 梅雨期衛生注意 ○母の會 ○健康相談 ○體重測定 ○體重測定	○むじ箇豫防デー(口腔衛生週間) ○園外保育(月島) ○健康週間 時の記念日	更衣 鐵砲洲稻荷神社參拜 動物愛護デー ○母の會創立記念日
○園外保育(月島四號地) 海軍記念日 お誕生會 ○幼稚園だより發行 東鄉元帥記念日 大掃除			○園外保育(休園) 鐵砲洲稻荷神社鎮守祭(休園)

	月		
	上旬	中旬	上旬
○大掃除 犬祓 ○夏季臨時保育開始 園児召集 ○金澤海岸海水浴	○母の會創立記念日 ○大掃除 ○幼稚園だより發行 第一學期終業式 ○ラヂオ體操の會始まる 園児召集 明治天皇祭	○母の會 叢入 孟蘭盆會 川開き ○母の會創立記念日	○肝油服用一時中止 七夕祭 ○身長體重胸圍測定 國旗制定記念日 ○健康相談 ○安全週間 ○大掃除 ○幼稚園だより發行 第一學期終業式 ○ラヂオ體操の會始まる 園児召集 明治天皇祭

九			
月	上旬	中旬	下旬
八	中旬	上旬	下旬
<ul style="list-style-type: none"> ○母の会 ○ラヂオ體操の會終了 ○夏季臨時保育終了 ○園児召集 ○園の内外大掃除 	<ul style="list-style-type: none"> ○ラヂオ體操の會終了 ○夏季臨時保育終了 ○園児召集 ○園の内外大掃除 	<ul style="list-style-type: none"> ○母の会 ○ラヂオ體操の會終了 ○夏季臨時保育終了 ○園児召集 ○園の内外大掃除 	<ul style="list-style-type: none"> ○母の会 ○ラヂオ體操の會終了 ○夏季臨時保育終了 ○園児召集 ○園の内外大掃除

十			
月	上旬	中旬	下旬
<ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園だより發行 お誕生會(八・九月生れ) ○大掃除 ○肝油服用開始 ○東京市自治記念日 ○園外保育(日吉臺 向ヶ丘遊園地) ○秋季清潔法施行 ○體重測定 ○健康相談 視力保護の注意 ○戊申詔書御下賜記念日 ○大運動會 ○神嘗祭 ○母の会 ○園外保育(月島) ○十三夜 お月見會 ○靖國神社例祭 ○お誕生會 ○大運動會 ○體育デー ○健康週間 ○凍傷調査 	<ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園だより發行 お誕生會(八・九月生れ) ○大掃除 ○肝油服用開始 ○東京市自治記念日 ○園外保育(日吉臺 向ヶ丘遊園地) ○秋季清潔法施行 ○體重測定 ○健康相談 視力保護の注意 ○戊申詔書御下賜記念日 ○大運動會 ○神嘗祭 ○母の会 ○園外保育(月島) ○十三夜 お月見會 ○靖國神社例祭 ○お誕生會 ○大運動會 ○體育デー ○健康週間 ○凍傷調査 	<ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園だより發行 お誕生會(八・九月生れ) ○大掃除 ○肝油服用開始 ○東京市自治記念日 ○園外保育(日吉臺 向ヶ丘遊園地) ○秋季清潔法施行 ○體重測定 ○健康相談 視力保護の注意 ○戊申詔書御下賜記念日 ○大運動會 ○神嘗祭 ○母の会 ○園外保育(月島) ○十三夜 お月見會 ○靖國神社例祭 ○お誕生會 ○大運動會 ○體育デー ○健康週間 ○凍傷調査 	<ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園だより發行 お誕生會(八・九月生れ) ○大掃除 ○肝油服用開始 ○東京市自治記念日 ○園外保育(日吉臺 向ヶ丘遊園地) ○秋季清潔法施行 ○體重測定 ○健康相談 視力保護の注意 ○戊申詔書御下賜記念日 ○大運動會 ○神嘗祭 ○母の会 ○園外保育(月島) ○十三夜 お月見會 ○靖國神社例祭 ○お誕生會 ○大運動會 ○體育デー ○健康週間 ○凍傷調査

十		月一十	
中旬	上旬	中旬	下旬
<ul style="list-style-type: none"> ○營養週間 ○健康相談 ○身長體重胸圍測定 ○暖房裝置　おべんたう温め ○避難演習　防火デー ○園外保育(月島) ○感冒罹患者調 ○體重測定 	<ul style="list-style-type: none"> ○世界大戰平和記念日 ○健康相談 ○母の會 ○新嘗祭 ○秋季齒科診查 ○齒科診療齒牙拔去 ○義宮殿下御誕辰 お誕生會 ○幼稚園だより發行 ○大掃除 ○滿期兵除隊 	<ul style="list-style-type: none"> ○明治節 ○園外保育(明治神宮外苑又は植物園) ○精神作興週間 ○體重測定 ○世界大戰平和記念日 ○七五三祝 ○母の會 ○新嘗祭 ○秋季齒科診查 ○齒科診療齒牙拔去 ○義宮殿下御誕辰 お誕生會 ○幼稚園だより發行 ○大掃除 ○滿期兵除隊 	<ul style="list-style-type: none"> ○明治節 ○園外保育(明治神宮外苑又は植物園) ○精神作興週間 ○體重測定 ○世界大戰平和記念日 ○七五三祝 ○母の會 ○新嘗祭 ○秋季齒科診查 ○齒科診療齒牙拔去 ○義宮殿下御誕辰 お誕生會 ○幼稚園だより發行 ○大掃除 ○滿期兵除隊
中旬		月二	
中旬	上旬	中旬	下旬
<ul style="list-style-type: none"> ○營養週間 ○健康相談 ○小豆粥　海軍始 入 	<ul style="list-style-type: none"> ○新年四方拜 書初 ○消防出初式 ○陸軍始觀兵式 ○第三學期始業式 ○感冒罹患者調 ○身長體重胸圍測定 初年兵入營 ○鏡開　春場所大相撲 ○體重測定 	<ul style="list-style-type: none"> ○おもちや祭　年の市 ○母の會 ○幼稚園だより發行 ○お誕生會 ○大掃除 ○皇太子殿下御降誕奉祝 ○第二學期終業式 ○大正天皇祭 ○冬季臨時保育開始 ○餅搗き ○冬季臨時保育終了 ○年越 	<ul style="list-style-type: none"> ○おもちや祭　年の市 ○母の會 ○幼稚園だより發行 ○お誕生會 ○大掃除 ○皇太子殿下御降誕奉祝 ○第二學期終業式 ○大正天皇祭 ○冬季臨時保育開始 ○餅搗き ○冬季臨時保育終了 ○年越

月		二	三	月
下旬	上旬	中旬	下旬	上旬
○感冒罹患者調査	○新入學兒童豫備身體檢查	○母の會	○新入園兒豫備身體檢查	○母の會
○幼稚園だより發行	○お誕生會	二十日正月	○園外保育(明治神宮)	桃の節句 雛祭
○大掃除	○幼稚園だより發行	地久節	○新入園兒家庭狀況調查	○父兄懇談會
○元節建國祭(梅の節句)	○體重測定	○母の會	○新入園兒豫備身體檢查	○父兄懇談會
○建國行進	○健康相談	○父兄懇談會	○新入園兒家庭狀況調查	○新入園兒家庭狀況調查
○母の會	○體重測定	○母の會	○新入園兒豫備身體檢查	○新入園兒豫備身體檢查
○智能検査	○健康相談	○父兄懇談會	○新入園兒家庭狀況調查	○新入園兒家庭狀況調查
○お誕生會	○母の會	○父兄懇談會	○新入園兒豫備身體檢查	○新入園兒豫備身體檢查
○幼稚園だより發行	○大掃除	○父兄懇談會	○新入園兒豫備身體檢查	○新入園兒豫備身體檢查
○大掃除	○大掃除	○父兄懇談會	○新入園兒豫備身體檢查	○新入園兒豫備身體檢查

鐵砲洲幼稚園は、その園児の家庭状況等を調査して、夏休中、健康教育の一案として、夏期臨時保育を昭和六年より毎年舉行してゐる。

場所、鐵砲洲幼稚園

期間 八月四日より二十一日まで

会費 一圓乃至一圓五十錢

収容兒、幼稚園兒よりの希望者五十名

職員、四名にて一日 二名宛

保育概要

體重測定、午睡、水遊び(シャワーバス使用)

園外保育、三回又は四回

日比谷プール二回、井之頭公園、金澤海岸海水浴

結果としては、

一、體重増加、各々〇・三五乃至〇・五五增加してゐる。

二、園児が毎日規則正しく愉快な生活が出来る。

三、父兄の理解者多く、毎年繼續して舉行することを希望するもの多數ある。

四、午睡により、夜の睡眠の妨げらるゝものはない。

等にして、保姆諸姉の御努力は、非常なものであるが、その效果は、努力にもまして大なるものである。

幼稚園に於ては、家庭との連絡は、殊に重要視せらるべきであつて、鐵砲洲幼稚園にて施行せらるる(一)幼稚園だより、(二)家庭訪問、(三)母の會等は、家庭健康教育上、宜しき試みである。

幼稚園だよりの要項は次の如くである。

四月

保育方針

四月の様子、（お行儀、健康上の良習慣）

園児の身體狀況

麻疹の原因及び手當

健康カレンダー使用法

耳下腺炎、水痘の原因と豫防

戸外運動の獎勵

五月

寄生蟲驅除

幼兒の厚着の害

戸外運動の獎勵

扁桃腺肥大

六月

齲齒の話

食物と傳染病（赤痢、疫痢、腸チフス）

白癬の手當

七月

定期身體検査の結果

身體及び衣服の清潔

汗に就て

夏の飲食物

海水浴の注意

日射病に就て

夏休健康心得

九月

健康カレンダー統計表

秋の衛生に就て

戸外運動の獎勵

身體發育狀況に就て

十月

戸外運動の獎勵

幼兒の薄衣獎勵

視力保存デー

猩紅熱に就て

十一月

凍傷の豫防

感冒の話

健康週間

戸外運動の獎勵

十二月

感冒豫防

冬期臨時保育

冬休健康心得

玩具、繪本の選び方

兒童栄養週間に就て

一月

肺炎に就て

姿勢

凍傷

二月及び三月

保育狀況

發育

春の衛生

結論、以上幼稚園の健康教育に就て述べたが、之を實施する保姆諸姉自身が、健康體でなかつたならば、仲々實行出來るものではない。保姆諸姉の健康問題に就ては、結核豫防の上に築かれた積極的衛生を要約せらるのであるまい。結核の豫防には早期診斷が必要である。ツベルクリン反應、X線寫真、赤血球沈降速度等、結核に必要な診斷方法によつて、専くこも、自身の自體の精密健康調査を行ふべきである。殊に、結核未感染者は時々ツベルクリン反應を行つて、陽性轉化の時期に充分注意する事が望ましい。勿論、是等検査は醫師の力によらねばならぬ。

普通は、身體が健全にして、始めて精神狀態も快活になり得るのである。かくて幼稚園の健康教育により、教育は國民を強化する所の準備を致すべきである。

非常時局に際し、益々強力なる國民を必要とする。満洲、北支、南中支に活躍し得る健康なる人材を養成することには、我國の將來に最も重要な事である。其際幼稚園の保育は、勿論、重要視せらるべきである。小學校の健康教育は、漸く、最近津々浦々に叫ばれるに到つた。幼稚園の健康教育も之と相和して、保姆諸姉によつて、實施せられん事を、衷心より祈つて止まない。

終りに臨み、本講演に際し、東京市京橋區鐵砲洲幼稚園保姆主任、穂積篤子女史の御助力を深謝す。

——(本會主催保育講習會講演に著者の加筆増訂を経たり)——

子供と環境(四)

山下俊郎

四、環境と子供とは如何に結びつくか

いままでわたくし達が環境について考へて來たいろ／＼の問題は、環境といふものが教育上さうして大事に考へられる様になつて來たかと言ふ事にしても、或は環境をさう考へるかといふ事にしても、また遺傳と環境との關係をさう考へるかといふ問題にしても、いつも子供と環境との關係を考へるに當つて、先づ考へて置かなければならぬ一般的な問題であつた。そこでわたくし達は、さういふ環境が子供に對してさういふ意味を持ちさういふ影響を與へるかといふ事を懸々具體的な問題として考へなければならない。また考へてもいゝのであるが、もう一つ考へて置きたい問題がある。わたくし達が子供と環境といふ事を考へる場合の問題は結局の所、子供と環境との關係である事には違ひないのであるが、さういふ環境が子供とさういふ關係にあるといふ事——具體的に言へば家庭といふ環境が子供にさういふ影響を與へるか、都會といふ環境が子供にさう響いて来るかと言ふ様な問題——に入る前に、一般に言つて、環境は子供とさういふ關係にあるか、環境が子供と結びつきにはさういふ結びつき方をするかといふ事、これをわたくし達は一通り考へて置き度いのである。そして殊に幼児の場合にはさういふ點が特に氣をつけられなくてはいけないかといふ事を少しばかり考へて置き度いと思ふのである。

× × × × ×

環境が子供に對して結びついて來る結びつき方、言葉を簡單にする爲に、わたくし達はこれを環境關係といふ言葉で現はしたいと思ふ。わたくし達は普通環境が子供に強い影響を持つてゐるといふ風に言ふのであるが、環境關係といふものを少し細かに考へて見るそこには色々の環境關係がある事に氣づく筈である。

先づ最初にわたくし達の氣のつく事は、一口に環境の影響と言つても、その環境が子供の心に映つてゐる場合、子供の心には全然映つてゐないが矢張り強い影響を及ぼしてゐる場合がある事である。前の場合は子供が環境を意識してゐる場合であり、後の場合は子供が環境を意識してゐない場合である。普通わたくし達は環境の影響といふときは、後の場合即ち子供が無意識のうちにうける影響を非常に重大視してゐる。これは一面から考へるこまゝことにその通りであつて、昔は環境と教育とを對立させて考へ、教育といふのは教育者が子供に——或は子供の意識に——積極的に働きかける力であつて、環境といふのは子供が無意識のうちに受ける影響であると考へてゐたのである。幼ない子供程この無意識のうちに受ける影響は大きい。それは子供はこういふ結びつき方で最も強く環境と結びついてゐるからである。それは自分の方から環境に働きかける力がないからであつて、環境の方で與へる影響通りになつてゐるからである。環境を心の中に映すといふ働きは、環境に働きかけるといふ働き方の最初の出發點であつて、少し心が成長して來ないここでの働き方が出て來ないのである。こういふ無意識のうちに影響を受けるといふ環境關係を、わたくし達は環境影響といふ言葉で現はす事にしたい。こういふ環境影響に對して、さきの子供の意識に環境が姿を映す場合の環境關係をわたくし達は環境體驗と名づけたい。環境に對して子供が感じる一つの體験だからである。環境體驗といふ場合には、環境が子供の心に映つた場合、言葉を換へれば子供が環境を意識する場合の意識の仕方が問題になつて來るのである。このやうな環境影響と環境體驗とが全然違ふ環境關係である事は言ふ迄もない。こゝに一の例を探つて見やう。例へば或る一人の子供のお母さんを子供の

環境の一要素として考へて見やう。このお母さんが非常に甘いお母さんである場合に右の事をあてはめて考へて見る。

その事情がはつきりする筈である。甘いお母さんは子供の嫌がる事は一切しない。萬事子供の言ひなり放題になる、たゞひ世間から見てしてはいけない事であつても甘いお母さんは子供の御機嫌を損ねる事を恐れて、子供のしたい様にさせる。

こういふお母さんは子供自身の心に映つたお母さんとしては、自分の言ふ通りにしてくれる「いゝお母さん」である。つまり環境體驗としてはいゝお母さんなのである。ところがこのお母さんは子供の日常の行動に無意識のうちに——といふより子供の意識する範囲の外に於て——影響するお母さんとしては、子供が我が儘だと言つて家庭の外の先生やお友達から排斥される様な行動をさせるお母さんとして働いてゐるのである。即ちこのお母さんは環境體驗としてはいゝお母さんであるが、環境影響としては誠に好ましからぬ影響を與へるお母さんなのである。こういふ風に考へる、環境體驗と環境影響とは全く相異なる環境關係である事が考へられなければならないのである。即ちもう一度くり返して言ふならば、環境關係としての環境影響は子供の意識しない影響であり、環境體驗は、子供の意識と結びついた環境關係である。幼児については環境體驗といふものは比較的貧弱であつて、環境關係としては環境影響の方がずつと大きい。だから環境影響が非常に大事ではある。然し幼児だからと言つて全然環境體驗がないのではない。立派にある。そして環境體驗にこそ子供を導いて行く導き方の根本の態度が定められるべき芽生えをわたくし達は見る事が出来るのであるから、環境體驗も亦決して軽視する事は出来ないのである。

× × × ×

右に述べた様な環境體驗と環境影響は、所謂物的環境であつても、人間的な環境であつても同じやうに當てはめる事が出来る。然しわたくし達が、特に環境の中の人間的要素だけに眼をつける——人間的要素は非常に大事なものである——

またそこに違つた環境關係を考へなくてはならなくなる。

子供の環境の中に在る人間と子供との關係は、要するに人と人との關係であり、社會的な關係である。社會的な關係の中で子供を眼中に置き、子供の心の成長を眼中に置くとき、最も大事な關係を持つものは模倣と暗示である。模倣も暗示も、子供と子供の環境中にある人間との關係であり、この人間の子供に與へる影響であるから、この二つは紛れもなく環境關係である。

模倣は先づ無意識的な模倣となつて現はれる。一人の子供が泣き出すと外の子供が何といふ事なしに泣き出すといふのは、よく赤ん坊の生活に見られる事であるが、これは一つの無意識的な模倣である。この様な模倣は従つてさきの環境影響の一つとも考へられるが、模倣の場合には環境の中の人間のみが及ぼす影響だといふ事と、模倣される人間の行動と模倣する子供の行動とが、全く同じ形であるといふ違ひがある。この二つは環境影響には必ずしもない事である。この様な意味の模倣は、幼児の環境關係としては非常に大事なものである。例へば毛蟲を怖がる母親の子供が必ず毛蟲を怖がる、神經質な親の子供が必ず神經質になるといふやうな事は、全く環境關係としての模倣によるものである。吃り見たいなものゝ場合でも模倣は餘程大事な役割を演じてゐると言はれてゐる。然し模倣は右の様な單な無意的な模倣だけに限らない。例へば子供が言葉を覚えやうとする時期に見られる模倣、また子供が日常生活に見聞きする色々な事柄をやる所謂何々ごっここの遊びに見られる模倣のやうな場合にはもはや無意的模倣でなくて、子供の方に模倣しやうとする意志が働いてゐる。が、模倣はやはり子供の環境關係としては、環境中の人の行動がそのまゝの形で子供の方へ移つて行くといふ點に於て大事な環境關係である事には變りはない。殊に幼児の生活に於ては模倣といふ働きが非常に活潑に働くので非常に大事なものである。

暗示の場合には、模倣のやうに全然同じ形式の行動が環境中から子供に移つて行くといふ事は見られない。然し或る一つの心構へが乗り移るのである。「あなたはライオンですよ」と言はれる、恰もライオンになつた見たいな氣持になる。これが暗示であり、ライオンになるといふ一つの心構へが、子供の方にひき起されるのである。幼児の生活に於ては暗示が非常に大きな役割をつさる。或る學者は暗示にかゝり易いといふ事は、幼兒期の心の最も大きい特徴の一つであると言つてゐる。この暗示の場合には、子供にはその環境中の人に對する意識はある。然しそれによつて動かされてゐるといふ意識はないのである。これは模倣の場合でもさうであるが、この點に於て暗示も模倣も環境體驗を違ひ、また環境影響も違ふ事がある。

× × × × ×

右のやうにして、環境關係を色々見て來る、わたくし達は一般的に言つて環境關係のうちに、環境影響、模倣、暗示、環境體驗の四つのタイプを區別する事が出来る。そしてこの四つの關係は、幼児の生活に於ては、いつも大事なものであるが、さりわけ環境影響、模倣、暗示の三つの關係は殊に重要な事を注意したいと思ふのである。然しこの事は勿論環境體驗が無視されてもいいと言ふ意味ではなく、環境體驗も亦、その芽生えの意味に於て大事である事を考へて置きたいのである。

× × × × ×

環境の問題を考へる時に、一般的な問題として考へなければならない事は、まだ残されてはゐるのであるが、わたくし達はこゝで一般的な問題を一先づ切り上げて、具體的な問題に入つて行き度いと思ふ。具體的な問題としては、家庭的環境、都會、田舎、貧困兒童の環境の問題を漸次考へて行く事にしたいと思ふ。(未完)

子供黨列傳 (四)

和氣廣蟲 ご 葛木戸主

石井 庄司

和氣廣蟲は備前國藤野郡の人で、忠臣清麿の姉にあたる。廣蟲は延暦十八年(四五九)に年七十を出て他界し、弟の清麿も同年に年六十七歳で歿したといふ。姊弟の年は満三つ違ひであつた。一説には廣蟲は延暦十七年に(四五八)亡くなつたといふ。さすれば弟の清麿よりは一年早く世を去つたことになる。いま延暦十八年に年七十で歿したこととする。その生年は聖武天皇の御代の神龜四年になる。聖武天皇の御代のはじめで、奈良の大佛殿なきもまだ建立されてゐないときである。

廣蟲は年十五のとき從五位下葛木宿禰戸主の許嫁となつた。此の葛木宿禰戸主には、續日本紀孝謙天皇の天平勝寶八年(一二一六)十一月十六日の記事による、次のやうなことが記されてゐる。

「是より先に恩勅ありて京中の孤兒をさり集めて衣糧を給して養はしむ。是に至つて男九人女一人成人す。因つて葛木連の姓を賜ひ、紫微少忠從五位上葛木連戸主が戸に編附して出て親子の道を成さしむ。」

これだけの記事では事情が明かでないが、京中の孤兒をさり集めて養育するに當つては、恐らくこの葛木連戸主が力を致したのであらう。それで成人するに及んで、葛木連に編附して、親子の道を成さしめたのであらう。此の時既に廣蟲は三十歳で、戸主のところへ嫁いでゐたものと思はれる。かやうな孤兒の養育といふことが、後に廣蟲をして更に多くの遺児を養護せしめたことになつたと思はれる。それにはまづ孝謙天皇の恩勅といふことを思はねばならぬ。そして夫葛木戸

主のここも忘れてはならぬところである。

清麿傳によれば廣蟲は弟の清麿と共に、孝謙天皇に仕へ、並に愛信を蒙つた由である。それで或は孤兒養育を葛木戸主に托せられるに就いては、まづ廣蟲が與つて力あつたのかも知れないのである。さもかくも廣蟲については、此の夫葛木戸主のことはぜひ特筆されなければならぬところであり、また畏れ多いこゝながら孤兒養育さいふこゝについては、孝謙天皇の御歎慮の程をも讀仰し奉らねばならぬのである。

天平寶字八年（四二四）九月には藤原仲麿の叛逆して誅に伏することがあつた。亂後一般の民衆は飢餓・疾病に悩み、遂に棄兒をする者が多く出づるに至つた。そこで廣蟲は人を遣はして之をさり養はしめたが、總て八十三兒を得た。そこで悉く養ふと稱して、姓を葛木首と賜つた、といふ。廣蟲に就いては、このことは誰知らぬものも無い程有名な話となつてゐるが、吾々をして云はしむれば之は全く前年の孤兒養育の延長に過ぎないのである。唯養育したる人數に多寡の差こそあれ、その精神といひ、事業といひ、全く同一といふべきである。前述の如く、兩者共に廣蟲の關係するところであるやもはからないのであるが、仲麿の亂後の事ばかり宣傳されて、それより九年前の葛木戸主の事の顯はれぬことを遺憾に思ふ次第である。

廣蟲は孝謙天皇の落穀せられるに及び自らもまた薙髪して法弟子となり、名を法均と改めた。神護景雲二年（四二八）法均年四十二の時には從四位に敍せられ封戸並に位祿位田を賜つた。處が翌三年（四二九）九月、弟清麿が宇佐に遣はされ八幡の神教を受けて歸るや道鏡の怒を買ひ大隅に流されたが、法均は詔により還俗してもとの廣蟲となり、備後國に流された。

光仁天皇の即位あらせられるや清麿は許され廣蟲も共に召還へされて、從四位下を授けられた。典藏となり出納を掌つた。累進して正四位下となり、長岡の都に宅を起すや稻を賜はり、やがて正四位上を受けられ典侍となつた。延暦十八年卒したが、淳和天皇の天長二年には正三位を追贈せられた。廣蟲たるもの以て冥すべきである。（昭和十二、十二、十）

おひな様

及川ふみ

材料

畫用紙八ツ切、或は千代紙

作り方

別紙構作圖は實物大でありますから、そのまゝの大きさで

作ることが出来るのであります。別紙に構圖する時は、直徑一センチの圓を二つ隣接して書き、この圓周を半徑で切つて正六角形を作つて、二つの圓の隣接である二角のところはそのままの圓にしておいて、他の部分は六角形に切りおこします。

千代紙で作るときは、前面の袖のおりかへしの部分へ、つまり點線のイロハの部分の裏側に表の模様の配合のよい無地の色紙をはればよいのであります。

畫用紙で作る場合には、表に出る部分は模様なごつけて

始めに前後の二つの圓を連ねる縦の點線の折目をつけ、次に横の點線の折目をつける。袖のおりかへしは、點線に従つていづれも外側へ外側へミ三度折つて、胸のところへつくるのイの部に糊を軽くつけます。

出来上つた胴に少しふくらみをつけるために、直徑よりも一センチ五ミリ短き構圖ニをイの點線の上の部に横にはつて前後の脇をつけ合せます。

顔は輪廓だけ畫用紙に謄寫したものに、幼児自身に或は墨で、或は鉛筆でかゝせて貼りつけるこよいのであります。

戦争を描いた昔の隨意畫

新 庄 よ し 一

非常時の緊張は内にひそめて、この頃の幼稚園は、組々がそれぐら殆んど平時の保育にたちかへつたようには思はれる、斯うして、幾分落ちついて見れば、去年の十二月の半ば、南京へ南京へ、さうして陥落し、日本中の人民が血を涌かしたあの頃を思へば、日毎に幼稚園生活が、めざましい活躍を見せてゐたといふことが、今、いよ／＼はつきりとしてきたわけである。そして、この機會に當つて、戦ひを直映したさまざまの遊びや話、又は自在畫にあらはれた繪といつたものにぶつかつて、はからずも平時の保育には見られないなまくしい戦時に於ける保育をこの度経験したのである。

日露戦争の頃はこんなであつたらうかと、手近にあるこの雑誌の合本をさり出してそのころを探がして見たが、戰

争を詠んだ詩歌とか、兵隊さんの服はなぜカーキー色にしたかとか、ほしいと思ふ直接保育關係の記事はさらに見当らなかつた。けれども、ほんの僅な思ひ出の二三行や、少しばかりの繪など的手がゝりから、當時の幼稚園生活を覗いて見ることが出來て、やつぱり戦時に於いての保育は相當に行はれたのを知つたのであつた。たゞ、それをさり上げて問題にするといふ迄には、児童教育そのものが、一般の關心になつてゐなかつた時代では無いかとさういふことが想像されるだけである。こんな思ひ出の記がある。

一の組の時には日露戦争當時で、遊びはすべて戦争ごつごでございました。男のお子は、お山の上や、木の蔭なごで勇敢に戦はれ、女のお子は赤十字の腕章を巻いて負傷者の後送と看護を致しました。

この時定めて看護婦さんになつたと思はれるお嬢さんが、今、いゝお母さんになつて、これを書かれたのであつた。何の氣もなく読み過ごしてゐたのが、あらためて読み返して見るこゝなる程、この短い記事ではあるが、一つ一つが大きな内容を持つてゐて、われくには思ひ當るこゝばかりなのである。

幸ひこゝに四五枚、戦争を描いた隨意畫が出て來た。日

露戦争當時のものである。主事室の書庫に、ほんの少しばかりではあるが、蒐集した史料がはいつてゐる。その中に幼兒の描いた戦争の繪が一枚あつたように記憶してゐたので、主事さんのお歸りになつたあゝ、大きなテーブルを占領し、紙片を一ぱいにひろげてこの一枚の繪を探した。こゝろが、はからずも一冊にさぢた幼兒の隨意畫が出て來て、明治三十八年三月である。あけて見るこゝ戦争の繪であつた。探がしてゐた一枚も出て來て、これが明治二十六年に描いたものであるこゝが、あこでわかつた。

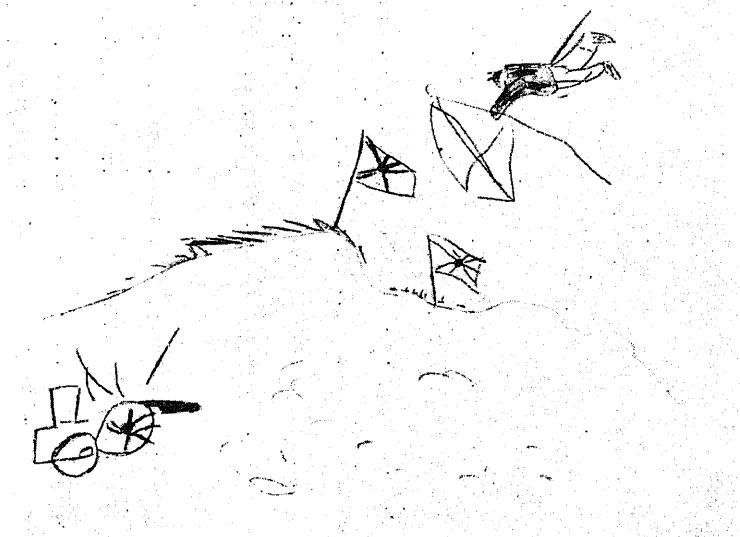
出て來たこゝ等の繪を見るこゝ三十幾年前の幼兒に、時の日露戦争がさのようになつたであらうか、それをどう描

きあらはしてゐるか、その方面の様子がほど推察出来るものである。定めてどちらの幼稚園の幼兒もこの度の日支事變の多くの場面を、盛んに描いてゐるのを保姆さん方はいろ／＼の思ひで見られたこゝと思ふ。時にさつて、それこそ此こ比べて見て頂きたいような氣がして、それに少しばかり解説めいたこゝを附け加へて、お目にかけてみたいと思つたのである。

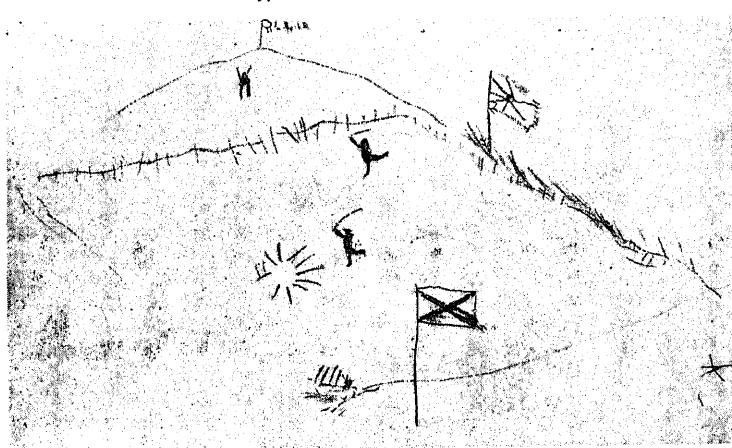
第一圖、第二圖共に奉天占領である。ロシヤ旗を持つた兵士が、わが軍の打つた大砲で、大そう高く飛び上つてしまつた。敵兵が屹驚して飛び上るこゝいふ觀念は、今度の繪にも度々見受けられるこゝで、氣の小さい憶病な動作を、敵兵にさせてゐるこゝろは、なか／＼銳い神經を持つてゐる。

第二圖では、手前の方がロシヤ、遙かに雙手を擧げて、占領を祝してゐるのが日本とは知れるが、中の二人はさてどちらの兵士であらうか、抜劍して攻勢に出てゐるこゝろを見ればこれも日本軍のつもりらしい。第三圖は鐵嶺占領である。たしかに平地での戰ひではない。日本軍が堂々と山の嶺を征服してゐるのに對して、哀れにも敵兵は中腹に俯

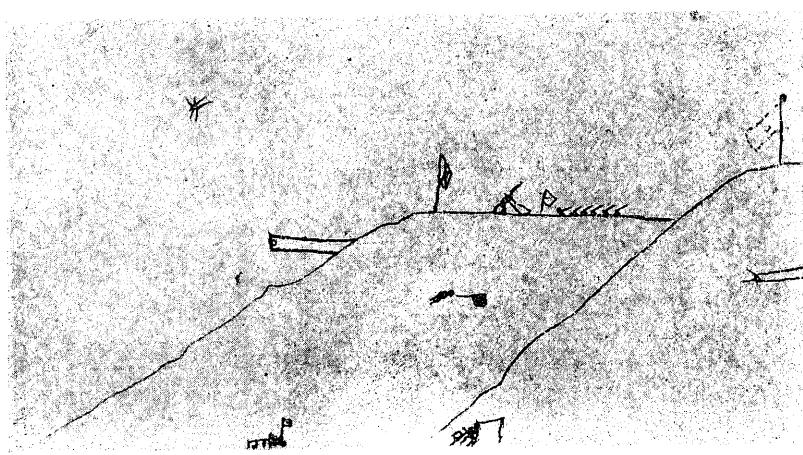
第一圖



第二圖



第三圖



伏してゐる。

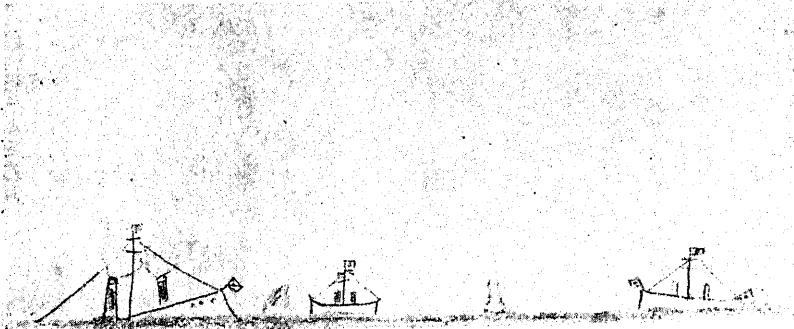
幼児の描く自在畫を見て居ていつもさう思ふ。或るところの情景を描きあらはすいふことはなかなかむづかしいと見える。單語の羅列はし易いが、センテンスになるごとにすらり出て來ないようなもので、人物だけ、飛行機だけ、戦車だけの單にその物の形は描き易いが、これが斯うして斯うなつてゐるところといふ圖は、描きながら相當心をはたらかせてゐるらしく、連絡關係といふのはたやすくかけるものではないらしい。

その意味で、次の海戦の一圖もまことによく戦況をあらはしてゐる。書き方としては少々小さすぎるが、第四圖は月夜の海戦であつて、空中での彈丸の爆裂があざやかに見えるし、激戦の様子が、艦の走り方でそれと知られる。第五圖はいさゝか波静かではあるが、左方、敵艦が、中ば沈みかけてゐるのが、なか／＼物を云つてゐる。この二つの圖のようなのは、今の幼児は決して描かない、南京占領など、なかなか見事な繪を描いてゐるので、ぢや今度は海軍のを一つかいて見て頂だいね、何か史料に藏つておきた

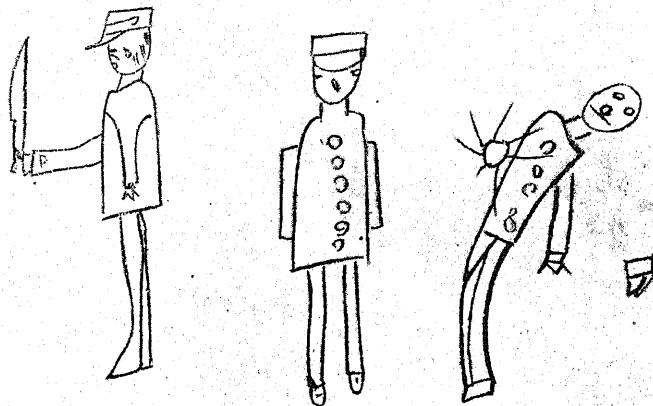
第四圖



第五圖



いしたごゝろから頼んでみた。
私の頭がこの繪以上に古い上
に、認識不足といふわけで、す
ぐ日本海海戦の圖柄を豫想して
しまふ、するごそんのは誰も
描かない、空中戦で、今、海軍
機から爆弾が落ちかゝつてゐる
さか、或は鐵兜に鎗をつけて、
それをかぶつた陸戦隊を描く、
軍艦にしても、うつかり既成觀
念から、あら、マストがもつこ高
くなくつちやなぎゝ云ふこ、そ
んなのないよこ、一蹴されてし
まふ。なる程海軍の戦の觀念は
すつかり變つてしまつてゐる。
陸軍のここでも、幼兒の方がよ
っぽぎ現代を知つてゐて、時々
教へて貰つてゐる。



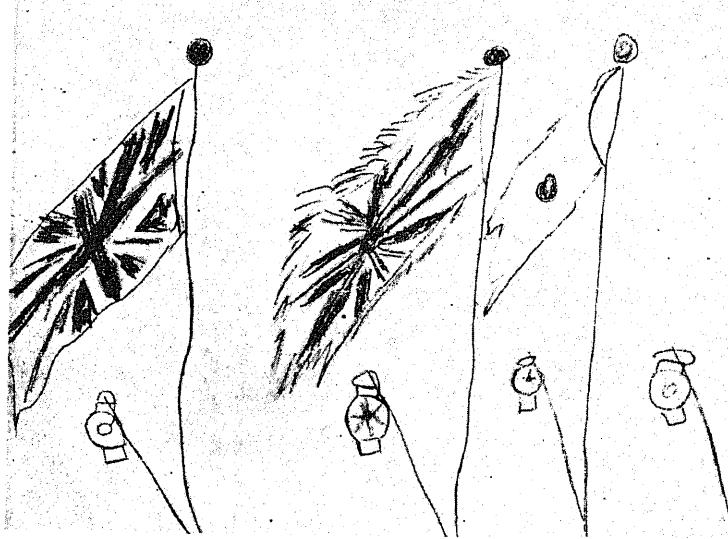
第六圖が出て來た時は思はず笑つてしまつた。子供のころがそつくり出でるのではないか、三人仲よく並んでゐるが、右方の弾丸に當つて倒れかゝつてゐるのは敵兵らしい。左方のは、きつと大將だネ、これを見せた幼児が云つてゐたが、そのつもりかも知れない。二人の平然とした表情に比して、なんぞ殘念そうな口もとであらうか。

第七圖は旗行列と提灯行列を一緒に描いてあるが、何れにしても戦捷奉祝の氣が一ぱいに漲つてゐる。三十八年の正月は難攻不落の旅順が見事陥落して、日本中は二重のお祝ひをしたものだ。今は時間が來ればニュースで戦況を知るゝ云つたかたちであるが、その頃は、何でもかでも號外で、この呼び聲と鈴の音は相當人々の心をかき立てたから、何々陥落の號外のたんび小踊りして喜んだ。その興奮が旗行列提灯行列となつて、今とは違つて、東京市といつてもすつと狭かつたから、市中至る所に提灯や旗が溢れるようであつた。それは幼児への印象も深かつたに違ひない。今のナチス旗伊太利旗に代つて、英國旗が翻つてゐるのも時代柄で、明治三十五年の日英同盟後は何でもかん

も英國ばかりであつた、これが思ひ出される。

國旗といへば、是等の繪にはロシャの旗がきつこ出てゐる。今度はあんまり旗を問題にしてゐない。この頃になつて漸く一二これを見出す位である。われくでもよく確めて見なければわからないといふような旗では幼児が自在に描く筈もなく、幼い頃からその國家觀念を養ふ上に、國旗が知らず／＼どんな役目をしてゐるか、如實に物語つてゐると思つた。

さて以上は、圖らずも見出した隨意畫が、時も時、かうして世に出た面白さにつゝ長々と書いたわけであるが、かねてから私の記憶にあつたといふのが次の一枚である。實物を見るこ、「大円しゆ」と書いてあるから大演習の實況を描いたと見える。筆者が解つたので、早速電話で尋ねて見たら、しばらく考へたあとで、そうですね、私は明治二十六年にたしか幼稚園でお世話になりましたから、その時のものでせうと笑つてゐられた。戰爭の描寫ではないが、この小さな紙片の中に、山又山を向ふにして、川あり草原あり、十幾名の兵士がそれぐの部で活躍し、なか／＼複雑な場



面を描いてゐる。これを描いた幼児が、今某有名紙店の主

であつて見れば、その頃、軍ものゝ繪草紙なきが店に多かつ

こんなに巧みに描けたのであらうかとも思つて見た。

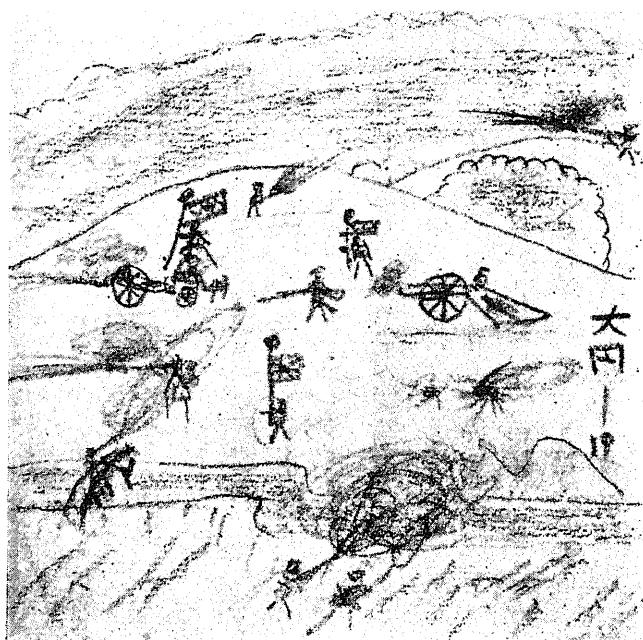
これが明治二十七八年筆であつたらば、私にさつては申
分ないこことなるが、それは鬼に角一年後には戦争になつ

てゐる。若しこの筆者がそれを描いたなら、やつぱ
り斯うした圖柄になるのではあるまいかと想像して
みた。

こゝへ今の幼児が描いたものを持つてくれれば、對
比に一層興味も出てくるわけであるが、まだ／＼そ
の渦の中にゐて、打ち切りといふわけでも無い、そ
れを代表作としてこゝへさり出してよいか選擇にも
迷ふ次第で、止めてしまつた。たゞ折々に見せてく
れる描寫の中から、これはさ思ふものはこり纏めて、
この時代を語る史料に藏つておく事だけは、この時
に遇つた保姆のせめてもの務めして行つてゐる。

ほんとうはこの昔の隨意畫をお目にかけさへすればそれでいいのであつた。さうぞ今の幼児の描く自
たであらう。もう／＼上手な上にそれ等の影響もあつて、
在畫と思ひ合せて、これらをよく見て頂きたい。

第八圖



猫と彼

東京女子高等師範學校教授 理學士 久米又三

昨春始めて幼稚園を知つた彼は、幼稚園を又しない満足なところを感じたらし。そこが或る日、如何にも不服な顔をして歸つて來た彼は、幼稚園には猫が居ない云ふ。なる程幼稚園には猫は居まい。だが小鳥が澤山居るではないか云つても、其の猫とは異ぶ云つて承知しない。終には此の猫を幼稚園へ持つてゆくと言ひ張りだした。

もとより此の猫は彼にあてがう積りのものではなかつた。彼の妹は彼に比べるといふらか内氣の方である。彼が部屋一杯に玩具を擴げて遊ぶ折でも、彼女は片隅で人形を立てたり坐らしたり、庭から持つて來た木葉を並べたりして小じんまり遊ぶ。そんな彼女が、隣家の小猫を如何にも愛らしさうにするのを見た此の家の主が、ふと思ひついで小猫を知人に頼んだのである。愈々小猫が手に入つた。

云ふ知らせを聞いて、今に小猫が來るかも知れない豫告した所、先づ反対の聲を擧げたのは彼であつた。彼は犬は是非欲しいが、猫は嫌ひだ云ふ。之に反して彼女は非常に喜んで、やがて來るかも知れない小猫が、さんな毛色で、大きさはぎの位で、又顔は可愛いゝかどうか等を大變氣にかけた。

ところが愈々猫が來て見る、意外な事には、先づ飛びついていつたのは彼女でなくて彼であつた。やつて乳離れて哀れな聲で鳴く小猫は、彼の勢に怖れて机の下にもぐり込む。彼の勢に比べる、小猫を遇する彼女の態度は頗る遠慮勝ちである。遠くから眺めて居る彼女の眼には、少しの親しみをも見せない。突然彼は小猫の名を「ミーミー」とする事を提議した。繪本の小猫が「ミーミー」だからであらう。

此の名は直に採用され、此の名は特に彼女を喜ばせた。彼女は「小猫のミーミー」を口吟んで飛び廻つたが、それでも別に小猫に親しみを見せない。

やつて離れた小猫の食餌は、頂度離乳期の幼児の場合と同じ様に、仲々難しいものに違ひない。不幸にも小猫の食餌問題は充分な討議を経なかつた。其の爲であらうか、小猫は屢々腸を害し、害する度に粗相した。餘り粗相が度重なると、家人も之を不快に思ふし、小猫の身邊一時急を告げたこともあつた。其にも拘らず、彼の猫に対する關心は益々積極的になつてゆく。或る時、部屋を出たきり、餘り歸りが遅いがと思つて居たら、玄関側の土間に停んで居る彼を見受けた。憶面もなく顔を地面に接近させて、科學者の様に何物かを注視し、しきりに吟味して居る様子である。彼は祕かに猫の排泄物に科學的興味を覺えたらしい。

知らぬ間に此の様な吟味を度々試みたと見える。排泄物に對する科學的記載事項が、驚くべく簡明に彼の頭脳に銘じて居る證據は、其の後折にふれて出る言葉の中に、眞に追つた表現が現れるこゝでも判る。

かうして猫と共に生活する日が重なるにつれて、彼は又彼自身と猫とのアナロジーを巧みに發見して行つた。此のアナロジーは比較解剖學者様に正確である。猫が爪で疊をかけば、彼も亦疊をかいてみる。猫が舌で毛を舐め、舐めた手で顔をふくさ、彼も亦手で顔を拭いて見せる。お臀に緒を下げる、猫の尾を稱し、寝床に入れば身體を丸め、手で鼻をかくして寝子だら云ふ。食卓では屢々、舌で水を飲んで見せて、此の家の主の吐りを買ふ。たまく此の様な時である、彼が幼稚園に對して猫の不満を漏したのは、以上の様な意味で彼が猫三昧に入つて居る限りは、此等の仕事が彼に勞苦を與へる筈がない。此の家の主も、之を見て見ぬ振りをする事が出來た。そこが如何なる理由で、彼が之を獨斷し、然るべく信じて疑はないのか不明であるが、猫が來た其の日から、猫は彼の配下に從属するものとして居る。此の信條が屢々彼を悲劇に導くのである。多くの子供がする様に、彼も亦猫を抱きしめる。猫は此の強制から脱したために悲鳴を上げ、身をもがく。餘りこれが度重なれば、此の家の主も之を見て見ぬ振りも出

來す、十度に一度は猫に肩を持ち、猫の解放を彼に要求する。もさより彼は猫に對し、此の家の主に對していたく不満である。然しながら彼も亦思ひ返して見る時が来るらしい。或日彼は積木を集めて家らしきものを造り上げた。彼は猫を顧て、此の家が猫のために造りしものであることを、彼の希望は猫が此家にさゞまつて、彼等と共に遊び仲間たらんことをあることを等を、言葉を盡して懇願する。然るにも拘らず猫は後肢を蹴つて立ち、積木の家を破壊して飛去つた。彼は之を大なる侮辱を感じたであらう。彼は顔を伏せて啼き、涙を流して此の家の主に訴へた。其の聲は『自分はしかく猫に對して讓歩し、猫に對して禮をつくして懇願するに拘らず、猫は自分の哀れむべき心情を察せず。猫は實に不埒である、又常に猫に對して同情を示す此の家の主も不埒である。責任は此の家の主にも在ることであるから、此の場合猫を連行して適當な所置をなせ』と云ふにあららしい。此の家の主も彼と猫を前にして、徒にほざこす術を知らず、只々目前の葛藤を一つの悲劇と觀する外になかつたのである。

こゝに於て此の家の主も祕かに猫に向つて言ふ。猫よ猫よ、汝何の因果あつて然かく彼、人の子を惱すや。念ふに汝の祖先は遠く異國の地にあつて、光榮ある歴史を有せり。荒漠たる北アフリカの野、ナイルの谿谷に、始めて汝の祖先が人の子エヂブトの民々交りしより三千年、汝の祖先は其の特技に依つて厚く保護され、神の如く崇めらる。汝の祖先は其の光榮のために故郷を出でず、爲に汝の名はイスラエルの民に知られずして聖書に出でず、ローマの民汝の名を知らず、ために汝の名はイソップ寓話に現れず。されど汝等最高の幸福は、エヂブト時代を以て終れりと認めよ。世紀始つて、流浪の旅に出でし汝の祖先は、汝の好敵鼠族の流浪を一にせることは、せめてもの汝の幸福と云ふべし。汝の祖先此の東洋の島國に來りしより約一千年、汝今日こゝにあつて斯く子に弄せらる、一に運命なり。

纏つて此の家の主、彼に向つて祕かに言ふ。汝人の子、何の因果あつて、しかく猫のために惱むか。念ふに汝の祖先(原始民族の生活は、必ずしも今日の如く幸福ならず)。

荒野に洞窟をうがち、湖上の荒屋に依つて僅かに自然の難を避けたり。汝今日あるは一に汝の祖先の苦闘に依る。汝の祖先は苦闘の中に自然を洞察し、自然に應化し、始めて文明の基礎を置けり。汝今日猫に悩むは死も祖先の苦闘に似たり。よし汝好む儘に猫を苦闘せよ。

彼不幸にして町に育ち、自然に親しむ充分な機會を持たない。偶々得たる小猫が彼の弄ぶ所となる。彼も恐くは猫を通じ、彼相應の力で自然の壓力を感じてゐることであらう。此の家の主の希望する所も實は之であつた。かくして秋は去り冬が來た。彼も猫も共に爐邊を慕ふ日が多い。彼は遠き異國より來れる猫の「寒がり」を發見し、蒲團を丸めて家を造れば、猫は喜々として其中に入る。彼は入口に耳をあて、猫の喉のゴロゴロを聞いて得々とする。兄の感化を受けた彼の妹も、又徐々に猫を顧る日が多くなつた。此の分では、彼が日頃求めて止まない犬も、遠からず知人に頼まなければなるまい。

保育實習科生徒募集

(官報抜萃)

本年四月入學せしむべき保育實習科生徒を募集す其要項左の如し。
昭和十三年一月 東京女子高等師範學校

一、募集人員 凡そ二十四名
二、學資 學資は總て自費とし授業料年額金五十五圓を徵收す。

三、選拔試験及身體檢查 選拔試験は二次に分ち之を施行す。第一次は全志願者に對し之を行ひ、第二次は第一次に合格したる者に對し之を行ふ。

第一次試験

國語(解釋、作文) 理科(動物) 圖畫(自在畫)

第二次試験

音樂(唱歌) 身體檢查並に口頭試問

四、出願期限 二月一日より同二十八日まで

五、試験及検査期間 三月十一日同十二日の二日間

六、出願受付 試験及検査場所

東京市小石川區大塚町 東京女子高等師範學校

右の外生徒募集に關する詳細は之を記載せる印刷物に就き承知すべし此印刷物は直接本校に就き受領するか又は參錢切手を貼附せる封筒を添へ本校に對し郵便を以て之を請求すべし。

フレーベル賞幼兒手技審査發表

豫て募集中の幼兒手技は豫告の通り昨年の十一月末日締切りました。皆御苦心の作で、かく熱心に應募して下さつたことを本會として悦んで居ります。就ては審査員及川ふみ、岸邊福雄、倉橋惣三、山形寛、和田實の五氏の嚴密なる審査の結果、豫告規定通り一等一名、二等二名、三等三名、選外佳作五名を決定いたしました。その作品は順次本誌に掲載致します。尚ほ當選者諸氏に對しては、規定通り、フレーベル館創業三十周年記念寄贈保育研究資金による賞品を贈呈いたします。

猶本誌より入選作品を發表してござります。

一 等 「萬 燈」

東京市澁谷區上原町岸邊幼稚園

荒 磯 壽 子

二 等 「粘 土 お し ろ」

神奈川縣神愛幼稚園

K . S

「雪だるま、雪兎」

神奈川縣大磯幼稚園

三 浦 豊 子

三 等 「兵 隊 さ ん」

京都市今宮幼稚園 堀 田 景 子

「繪 馬」

東京市神田區東洋幼稚園 藤 井 君 代

「金 魚 鉢」

高知縣赤岡町清濱幼稚園 司 馬 重 子

選外佳作

「大 鋸 屑 繪」

三重縣上野町立第一幼稚園 西 口 志 佳

「金 魚 鉢、臺」

群馬縣境町幼稚園 小 田 桐 たか子

「兵 隊 さ ん」

新潟縣新發田町上鐵砲町 三 浦 秀

「木 の 葉 應 用 貼 紙」

福井縣敦賀市立五三島保育園 池 野 倍 子

「櫻」

東京市中野區沼袋町一一七 橫 瀬 末 子

フレーベル賞手技審査に就て審査員

諸氏の御意見御感想

手技の創作懸賞募集について

及川 ふみ

まんどう

かねて幼児の手技については興味をもつてゐるので、今度の手技の懸賞募集には少からず期待をもつてゐたのである。募集期間も相當長くあつたのに〆切りが近づいても出品がなかなか届かないで少々心細かつた。全體としての應募點數はごく少いのであつたが、送られて來たものはさすがに一品一品ござれも見所のあるものが多いやうに思はれた。

作品の數點について思ひついたまゝをのべて見る事にする。

第一に感じたのは、さぞ幼児たちは喜ぶものであらうといふ事で、實に愉快であつた。(このまんどうに興味をもつ幼児たちは東京地方のものに限られてゐるかも知れないが、氏神の祭禮の時に子供たちがもつて遊ぶものであるから、他の地方でもこれにかはるものがある事と思はれる)

次にこれを作る方法は至つて簡単であるところもこの作品の長所の一つである。しかもキャラメルの空箱でつくら

れてゐる事である。

粘土のおしゑ

これは普通の粘土作品で、一寸趣をこににして、粘土を板様に平面したものゝ上に自然物をあしらつて繪、模様を表はしたものである。自然物を巧みに配してあつて、幼児の年齢の程度なごによつてそれぞれ簡単なものも複雑なものもつくるられる事である。ここにこれの出品者が海岸地方であるために、貝殻、小石などの自然物の配されてゐるもの地方色があらはれてうれしい事である。都會の幼稚園ではそこで得られる材料を用ひ、農山村の幼稚園では草や木の葉、實なさを使へばよいのである。

兵隊さん

これはぎんぐりを鐵かぶさにしてあるのが面白い。時局柄の手技である。技巧としては、幼児のものとして少し出来すぎるのでないかと思はれるのである。あれを幼児たちの手だけで出来る程度のものにするこ、もつこよいものになつたのではなからうか。

在來の砂繪といふものゝやうに糊で、ある形をかいておいて、綿をその上にのせてつづつたものである。雪だるま、雪うさぎの感じがよく綿で出でるるのである。材料を考へたところをさつておきたい。

大鋸屑繪

これも雪だるま同様に、糊で下繪をかいておいてその上に色づけをした鋸屑をふりかけて出来てゐるので鋸屑を利ししたところをさりたておきたいものである。この作者はその技巧がなかなか巧みであるのに感心したが、自分がつくれたものゝみでなく、このすぐれた手で指導した幼児の作品が見たいものであつた。

以上は作品をながめて感じたものについて挙げて見たのであるが、全體の應募作品について感じた事は

應募作品の點數はあまり多數とは云へなかつたが、いづれも皆相當に工夫せられたものののみであつた事である。

次に幼児の手によつての作品の一箇もなかつた事は殘念なことであつた。勿論保母の創作手技の募集である以上先

雪だるま、うさぎ

生の作品のよせられるのは當然すぎる事であるが、その創案を幼児の手によつてつくられたものがあつたとすれば先生以上の作品となつたのではなからうか。この點いさゝか物たりなさがある。

幼児の手技製作品の立體的でありたいといふ事はいつ

此後の幼児の手技は用材を擴げて考へたい

岸 邊 福 雄

×
がご考へたのでありました。

×

幼稚園の手技は、次第に進歩して來た事は一般に認める所であります。こは申しますものゝ矢張り其材料が千篇一律の感じがあります。

×

丁度好い此の機會に、私の平素の持論を實際にして、權威のある本審査委員諸君の指導を仰がんものゝ、私の二つの幼稚園の保母の方達に獎めて製作させたのであります。

今回フレーベル賞付きの募集の結果を見ても、矢張り從來通りの、色紙細工の類が多數であります。無論幼児の手技である爲に、細工のなし易い紙類を材料とする事は當然でありますけれども、今少し、從來の園より出てはいか

も、のぞむところであるがいろいろの理由でそれがみたされない時も多いであらうが、今度の場合なごの様にその作品に甲乙をつける場合ごうしても立體的のものに勝をせいぜられるのである。平面的なものに満足しないで出来るだけ立體的のものをつくる事をのぞむ次第である。

生の作品のよせられるのは當然すぎる事であるが、その創案を幼児の手によつてつくられたものがあつたとすれば先生以上の作品となつたのではなからうか。この點いさゝか物たりなさがある。

幼児の手技製作品の立體的でありたいといふ事はいつ

此後の幼児の手技は用材を擴げて考へたい

岸 邊 福 雄

×
がご考へたのでありました。

×

幼稚園の手技は、次第に進歩して來た事は一般に認める所であります。こは申しますものゝ矢張り其材料が千篇一律の感じがあります。

×

丁度好い此の機會に、私の平素の持論を實際にして、權威のある本審査委員諸君の指導を仰がんものゝ、私の二つの幼稚園の保母の方達に獎めて製作させたのであります。

今回フレーベル賞付きの募集の結果を見ても、矢張り從來通りの、色紙細工の類が多數であります。無論幼児の手技である爲に、細工のなし易い紙類を材料とする事は當然でありますけれども、今少し、從來の園より出てはいか

も、のぞむところであるがいろいろの理由でそれがみたされない時も多いであらうが、今度の場合なごの様にその作品に甲乙をつける場合ごうしても立體的のものに勝をせいぜられるのである。平面的なものに満足しないで出来るだけ立體的のものをつくる事をのぞむ次第である。

の保母の出品が、うまい様に感じられて、少々氣まづく覺えたのでありましたが、

×

評點は、一品宛に、無記名で投票する事になつたのでありますから、私の懸念も稍々薄らいだのでありました。

前述の苦衷は唯だ私のみ抱いてゐたのであります。他の審査員諸君の默々のござれくに、是は用材が珍らしい、是は手法が簡単で尚うまい、好評を博してゐる品の中に私の見知りものがあるのででした。

×

用材が珍らしい。こゝが、私の覗つた點であります。果して開票の結果は、断然最高點を占めてゐたのであります。他の隨從をゆるさぬ高點であります。私の幼稚園の保母の出品が好評を受けて高點の名譽をかち得たと言ふ喜びよりも、私の歓びはかねての主張が、此機會にしかこの認識せられたと言ふ事であります。

×

私の幼稚園の出品は、數點であります。其二等賞に

當選した品は、キヤラメルの箱にキビガラミマハラセを補助材として加工したものであります。尚他の一品は木の板を用材として繪馬額を作り、それに児童に水彩繪具で繪を描かせたものであります。木材を幼児の手技に用ゐる事は、紙細工より一步横に出たものであります。

×

一等に當選した品に、白い綿を用ゐたものがありました。いづれの出品か、其出品者の方は覺えませんが、私はいつては新智識であります。尚手法も簡単で、たしかに今回の出品中の創作であります事を歓んだものであります。

×

審査員として遺憾に感じました事は、出品數の意外に少數であつた事であります。是は察するに、くり返へしくり返へし、同一類似の手技を往復してゐられる保母の方達が、創作氣分を盛り込んだ製作品と氣が付かれた時に、自信を失はれた爲めであると思はれます。

用材は從來とても、可なり多種多様に使用してゐるのでありますけれども、更に、一步を進めて、用材を見付け出

す事に力を致しましたらば、更に手技其物も其品種を増すものではないでせうか。此の如き點からも、幼児教育全般の上に活氣を加へるの端を開くに至るものではないでせう

か。一切實に深い感想を抱いたのであります。

一三、一、三

幼児に適するこいふことに就て

倉 橋 惣 三

募集の要件として、幼児に適する手技こいふこことある。その、幼児に適するこいふはぎういふこことだらうか。幼児に見せてやるために、幼児を持つて遊ばせるために、若しそういふこことなら、玩具屋さんか、児童藝術の先生にお願ひしたら一番結構のものが出来そうだ。勿論、幼児の趣味、興味に適させて、彼等を樂しまずこいふ幼稚園の保姆さん方の一つの楽しい役目ではあるが。……しかし、此の募集に於て、幼児に適するこいふのは、そういう意味ではなくらう。幼児が作るに適切なるこいふこことある筈である。幼児に作らせるに適切なるこいふこことある筈である。これは、應募者諸君も、皆さんそう解してゐられた。

しかも、以上二つの要件の他に、もう一つ大切なことが

そりで、問題になるのは、幼児に作らせるに適するこいふことの意味である。先づ第一に考へられるこことは、幼児にむづかしくないこいふことであらう。いくらいゝ趣向でも、幼児の製作能力以上のものであつてはならない。これは分りきつたこことだ。次に第二に、幼児が作りたくなるやうなものこいふことである。之れが、如何に大切な要件か

こいふことも、更めていふまでもない。作らせるこいつたて、幼児が作りたくなるものでなくしては、幼稚園として眞に作らせるこことは出來ない。應募者諸君も、此點はよく心得てゐられて、そこへ趣向を向けられてゐる。

す事に力を致しましたらば、更に手技其物も其品種を増すものではないでせうか。此の如き點からも、幼児教育全般の上に活氣を加へるの端を開くに至るものではないでせう

か。一切實に深い感想を抱いたのであります。

一三、一、三

幼児に適するこいふことに就て

倉 橋 惣 三

募集の要件として、幼児に適する手技こいふこことある。その、幼児に適するこいふはぎういふこことだらうか。幼児に見せてやるために、幼児を持つて遊ばせるために、若しそういふこことなら、玩具屋さんか、児童藝術の先生にお願ひしたら一番結構のものが出来そうだ。勿論、幼児の趣味、興味に適させて、彼等を樂しまずこいふ幼稚園の保姆さん方の一つの楽しい役目ではあるが。……しかし、此の募集に於て、幼児に適するこいふのは、そういう意味ではなくらう。幼児が作るに適切なるこいふこことある筈である。幼児に作らせるに適切なるこいふこことある筈である。これは、應募者諸君も、皆さんそう解してゐられた。

しかも、以上二つの要件の他に、もう一つ大切なことが

そりで、問題になるのは、幼児に作らせるに適するこいふことの意味である。先づ第一に考へられるこことは、幼児にむづかしくないこいふことであらう。いくらいゝ趣向でも、幼児の製作能力以上のものであつてはならない。これは分りきつたこことだ。次に第二に、幼児が作りたくなるやうなものこいふことである。之れが、如何に大切な要件か

こいふことも、更めていふまでもない。作らせるこいつたて、幼児が作りたくなるものでなくしては、幼稚園として眞に作らせるこことは出來ない。應募者諸君も、此點はよく心得てゐられて、そこへ趣向を向けられてゐる。

ある。それは幼児にその手技をさせて、どういふ教育效果がねらはれてゐるかといふことである。幼稚園で手技をさせる。それも誘導保育中の製作でなく、それべの手技を手技としてさせる場合、必ずや、それから得られる教育效果を期待されてゐるに相違ない筈である。そのねらひどこが幼児教育として適切である時、その手技が幼児に適するものとして——詳しく述べば、幼稚園手技として適切なるものとして廣く奨めらるべきものになるのである。いくら幼児に面白くとも、幼児にむづかし過ぎなくとも、そのねらひどこに教育價値がないのでは、幼児の趣味能力に適しても、幼児教育に適する手技とはいへない。つまり、幼児のために考案せられてゐるものとはいへない。どこが今度の應募作品といふ譯ではないが、一般に新考案として發表せられる手技に、どうも此の點の充分の用意のないことが多いやうに思はれる。若し幼稚園の手技どこのものが、それべの作り方を教へるといふだけなら、こんなことはどうでもいい。なるほどそうすればうまく作れるなといふところで、その考案の價値が完了する。こうして、こ

うして御覽、こんな面白いものが出来るどこだけのことである。つまり作り方傳授である。それもいゝがしかし、幼稚園の手技考案はそれだけでは完了すまい。幼稚園手技の教育的効果は、その出來上りの他に、その製作工程のもう一つ教育效果にあるものだからである。

今度の應募作品に就ても、私は一つ／＼そこの點を分析的に考へて見た。作者は果して、どういふ教育的意圖の下に、それを幼児にさせようとしてゐるのだらうか。どこが、どうも、どこのどこが果してどうなのだらうかどこいつた氣がする。勿論、どんな製作だつても何かの教育效果を、その製作工程の間に有してはゐる。たゞそれが、考案者にはつきり意圖されてゐないでは物足りないのである。藝術技巧家や、玩具屋さんが考案して呉れるのならそれでよからうが、幼稚園の先生のは、それでは齎むまいではなからうか。

子こもが自分で作り出す手技に、一々こんな要件を附すべきではない。又、誘導保育などで、具體的にそれべのものを作ることになつて來る場合、一々こんな要件を分析

しなければならぬこゝもない。たゞ初めから、教育者の方から、こうして幼児に手技をさせようとする時、その效果

の期待のあるべきは、當然であつて必須のことであるべきなのである。

手技審査雑感

山形寛

初冬の某土曜日の午後、瓦斯ストーブの赤々と燃えてゐる附屬幼稚園の主事室で豫て募集中であつた手技の審査會が催された。集まつた審査員の面々倉橋さん、岸邊さん、

和田さん及川さん等々何れも皆様御承知の方々で一度お會ひすれば忘れるこゝの出來ない外的にも内的にも特色のある存在。しかも子供と言ふ對象に向ふ時、期せずして一致する或物を持てる方々。

室の周圍の卓上には數は少いけれども應募者各位苦心の粒揃ひの品々が井然と併べられてゐる。先づ下見をする。審査方法に就て協議せられる。そしていよいよ決定せられた結果は別に發表せられるであらう如き結果となつた。

一、萬燈

材料はきびがら、キャラメルの空箱、麥幹、紙等である。如何にも簡単な構成でよく氣分を出している。勿論幼児にも容易に作れるでせう。かう言ふ江戸趣味とも言ふべきものを現代に生かすこゝも面白いでせう。お祭、子供が好きさうです。

手技材料としていさゝかあきられてゐる麥幹もかう使へば新しい生命が動いて来る。作品を通して見る作者の神經は都會人らしい纖細さを持つてゐる。洗練されたよい趣味の作品である。先づ第一等

しなければならぬこゝもない。たゞ初めから、教育者の方から、こうして幼児に手技をさせようとする時、その效果

の期待のあるべきは、當然であつて必須のことであるべきなのである。

手技審査雑感

山形寛

初冬の某土曜日の午後、瓦斯ストーブの赤々と燃えてゐる附屬幼稚園の主事室で豫て募集中であつた手技の審査會が催された。集まつた審査員の面々倉橋さん、岸邊さん、

和田さん及川さん等々何れも皆様御承知の方々で一度お會ひすれば忘れるこゝの出來ない外的にも内的にも特色のある存在。しかも子供と言ふ對象に向ふ時、期せずして一致する或物を持てる方々。

室の周圍の卓上には數は少いけれども應募者各位苦心の粒揃ひの品々が井然と併べられてゐる。先づ下見をする。審査方法に就て協議せられる。そしていよいよ決定せられた結果は別に發表せられるであらう如き結果となつた。

一、萬燈

材料はきびがら、キャラメルの空箱、麥幹、紙等である。如何にも簡単な構成でよく氣分を出している。勿論幼児にも容易に作れるでせう。かう言ふ江戸趣味とも言ふべきものを現代に生かすこゝも面白いでせう。お祭、子供が好きさうです。

手技材料としていさゝかあきられてゐる麥幹もかう使へば新しい生命が動いて来る。作品を通して見る作者の神經は都會人らしい纖細さを持つてゐる。洗練されたよい趣味の作品である。先づ第一等

の價值十分と言へやう。

二、粘土の掛額

童心に満ちた作品である。創意の多い作品である。作者の神經は太いが質のよい太さである。

波浪に美しく磨かれた小石、公孫樹の葉、竹など甚だ巧に使つてゐる。數點の出品何れも面白いが特に二人の子供が踊つてゐるのが面白い。公孫樹の葉柄を利用した手、足、小石を利用した頭、胴等何物の加ふべきものも減すべきものも無い。石それ自身の持つ明瞭な形も面白く活用してゐる。唯此の作品は生の粘土の中に石や竹を埋めて作るのであるから、粘土が乾燥するにつれ龜裂を生ずる缺陷がある。

然し幼児にやらせる手技は作ることそれ自身、製作の過程に價値があるので、作品が保存に堪へるか否かと言ふことは、あまり問題にする要はないのであるから、このまゝでも結構であるが、出來得べくんば、せめて子供が厭まる地位は原形を保存したいものである。この點多少の考慮の餘地はありはしないかと思ふ。

私は此の作品を見て自分の子供の時のことを思ひ出しう。然し如何にも上手に構成してある。全體のボーズも面

た。よく川底から粘土を探集して來てこれに類したものを作つて遊んだことを覺えてゐる。

三、綿細工

色紙をむしり貼る細工に綿を併用した所が新工夫である。いや綿を併用すること必ずしも新工夫とは言へないかも知れんが此の作品は何れも、それを巧に使つて居る所に生命がある。技巧も想も如何にも子供らしいではないか、綿を使ふことは子供にとって必ずしも容易な技巧ではない。然し出來ないことは無いであらう。極むづかしい所は手傳つてやつてもよい。

ボール紙で兎なり達磨なりの形を切り抜き、それに綿を貼り、然る後臺紙の上に貼りつけばかへつて工作が容易で且つ立體的になつてより效果的になるかも知れん。
さにかくこの作品の醸し出す雰圍氣は幼稚園的である。そこがこの作品が「等」席をかち得た所以である。

四、兵隊さん

此の作品は紙の細工として珍らしいとは言へないでせう。然し如何にも上手に構成してある。全體のボーズも面

白く、さんぐりの鐵兜もよい思ひつきである。それよりも全體として軽快で、動いてる氣持しが一層面白い。恐らくこの作者は優れた技巧の持主であらう。この位の腕を持つて居るならば、今少し新しい境地を開かれては如何かと思ふ。此の作品は多少技巧倒れになつて居りはしないか。

今一段の研究が望みたい。

五、繪馬

繪は紙の上に畫くのが普通であり、又それでよいのであるが、時には羽子板とか、彌榮皿とか、此所に出品された繪馬とかに、その裝飾畫と言ふ意味を持たせて畫かせるところ面白い。かう言ふ仕事も幼稚園におすゝめする。

此の繪馬は無論板で作つてある。手際は決してよく作つてない。この不手際な所に一種の面白さがある。この不手際な木工も子供だけで獨立して作ることは困難でせう。然し保母さんとの合作でなら出来るでせう。此の種の木工をやることも幼稚園におすゝめする。

七、其の他の佳作々品

佳作一席に鋸屑で畫いた繪がある。別に珍らしいとは言へないが、それに用ひた鋸屑が甚だ細かい目の揃つたもので美しく著色されてる點が目につけた。これは甚だ多くの同手法による作品が出されて居つたが、畫かれた繪が如何にも味のない大人式に抽象化され形式化された描法のものであつた爲、多少損をした感がした。子供に畫かせた方がかへつても味のあるものになつたであらう。仕事を

恐らく萬人に愛せられる作品であらう。そこに此の作品の價値がある。全體の氣持しがして一等當選の萬燈籠がここが共通の所がある。繪もなか／＼よく書いてある。然しこの作品は「唯これだけのものだ」と言ふ感が無いこともない。

六、魚のぞき

この種の作品は類似のものがまだ他にもあつた。それだけに別に新工夫を認むべき點も少かつた。然し作品の中では材料のこなし方が優れて居り、糸を吊した魚などもなかなか働いてゐた。類似作品の代表としてこの作が三等の席に選ばれた譯である。

此の作品は何とはなしに親しめる作品である。此の作品を見るに何處かの室の壁に掛けて置き度い様な氣が起る。

れ自身は多少幼稚園で採用してもよいでせう。

第二席の金魚鉢は前の魚のぞき同巧異曲の物である。第三席の兵隊さん、この種のものとしてなかなかよく出来てゐる。別に難の打ち處はない。唯あまりに形式化された爲か、整ひ過ぎた爲か迫力に乏しい憾みがある。

第四席の色々な木の葉を利用した作品。なかなか巧みに出来てゐる。然し唯つきり出來てゐると言ふだけで味に乏しいのは惜しいこゝである。この種のやり方でも工夫すればもつと味のあるものが出來やう。子供にやらせた方がもつと味のあるものが出來やうと思ふ。紅黄さりぐにもみぢした種々の葉を色紙を使って貼紙と同じやうな氣持ちで使つて種々の面白い表現をした某中等學校生の作品を見たこゝがある。これを幼稚園程度でやれば面白いもののが出來ようと思ふ。

第五席の櫛、まあ普通の作品である別に難點も無いが、これはこ思ふやうな點もない。

以上入選、佳作作品に對して寸評を試みた次第であるが、此際一寸つけ加へて置きたいのは第一にこの種の募集に對

してもつと澤山應募してほしい事である。日々幼児を扱つて居られる諸君は子供の相手をして居る間に色々の手技を工夫されるであらう。それをノートして置いて應募されも幾らでも材料はあるでせう。又子供等に自由に何か作らせて居る中には、子供相當種々工夫して作ることもあるでせう。それ等の中には必ず大人の考へ及ばぬ好材料を發見せられるこゝと思ふ。そんなのに少し工夫を加へれば無限により手技の題目が見つかるでせう。そんなのを應募されば必ず面白いものが現はれるこゝと思ふ。子供等の仕事の中から、子供等にやらせてよい材料を見つけ出さうこ努力する位の熱は保姆諸君は誰れどもが持つて居られるでせう。又先生が常に何かを求め、工夫し、製作して居るこゝは、一つの社會的環境を作ることになつて、子供等の仕事の衝動を刺戟し發達させる一動力となるのであるから、先生が常に工夫し製作することはやがてその可愛い教へ子の中から發明家を産み、生産力ある國民を育て上げることになるのであるから、此の方面に對しても御盡力下さるやう邦家のために御願する次第である。

手技作品募集中に就いて

目白幼稚園 和田 實

舊臘、本協會で、例のフレーベル賞を懸けられた手技製作品を募集され、其應募品の審査に關係しました爲めに、感想を書く様に云ふことをした。夫れでベンを採つて見たものゝ餘り大した感想もありませんが、少しは物して見ませう。

大體、手技作品としては左記二通りのものが出来る可き筈だと思ひましたが、

一、製作された作品を玩具として、之を玩弄することに重きを置く可きもの
二、製作することに重きを置いて成績物は、唯鑑賞するに止まるもの

のは何と云つても紙を材料としたものであります。木材を材料としたものに至つては、殊に稀で僅に二三點に過ぎませんでした。

夫れで變つた趣向としては、粘土を平にのばした上に種々の色をした小石を並べて並べ方遊びをしたもので、(確か、下谷の竹町幼稚園であつたかと思ひますが)、東京市内の幼稚園では數年前から實行して、面白い圖案や模様を作つて遊んで居るのを見ましたが、まだ一般には普及しては居ない様で、一顧の價値ありと感じました。入賞の分は審査員諸氏の批評點を合計したところで等級が定められたものですから、極めて公平な評價ですが、然りて、一等と二等とで何れだけの價値相違があるか云ふことは餘り判つきりとは云はれないと思ひます。マア各等級を取り去つて、兎に角、入賞云ふことで、一括して考へて丁度よいのではないかと思ひました。

フレーベル賞入選手技

一等

萬燈

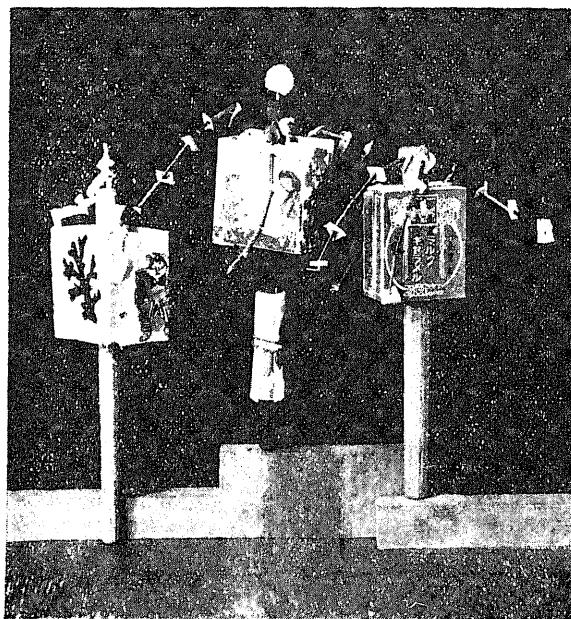
岸邊幼稚園 荒磯壽子

材料

キヤラメル空箱(小)二個 きびがら一本(一八糸)、元結二〇糸二本、他に色の違ふきびがら、色紙、むぎわら、
畫用紙、ひご等少々

作り方

キヤラメルの外箱二個を粘り合せ、箱の大きさに合せた
畫用紙に繪を書き箱の周りに粘る。次にきびがらを縦に
真二ツに割り、端から二糸の所から箱の縦の長さだけ、
きびがらの割つた面を少しけづる。(これは粘り合せた



箱の紙の厚さだけ、きびがらをへこますわけ。

そこへ箱を挟み糊できびがらを粘り合せる。

次にきびがらの端から一糸下つた所へ四方に針で穴をあけ長さ二〇糸の元結を通して、兩端を一〇糸づゝ垂す。(都合一〇糸の元結が四方に垂れる)

一・五位) 交互に今の元結に通し下を止める。色の違つたむぎわらを輪切りにして、ひご(三糸)にて柄のきびがらの頭にさす。

二 等

粘土おしゑ

神奈川縣大磯幼稚園

K

•

S

材料

- 1、粘土
- 2、空箱(浅きもの或ひは箱の蓋)
- 3、石ころ 青竹 貝殻 木の葉 その他種々

製作の方法

適當な大きさのボール箱の蓋などに粘土をなるべくかた

く平につめる。その上に、石ころその他の材料で色々な繪を置き、位置の定まつたところで粘土の中に押し又はおさへつけて密着させる。そのままかげ干しにして乾燥させる。ボール箱は粘土の水分を吸收して自然に形がくづれるから、その時にそつと取りのぞく。はじめボール箱ならその一部をさき取り針金をまげてはめこんで置けば乾燥後それを柱等に掛けることが出来る。

子供への與へ方

先生がいくつかこしらへて置いたものを見せる。心掛け用意して置いた箱に粘土をつめさせる。石ころ、青竹(これは五糸、三糸、一糸ご種々の長さに切り、細く割り

箱の紙の厚さだけ、きびがらをへこますわけ。

そこへ箱を挟み糊できびがらを粘り合せる。

次にきびがらの端から一糸下つた所へ四方に針で穴をあけ長さ二〇糸の元結を通して、兩端を一〇糸づゝ垂す。(都合一〇糸の元結が四方に垂れる)

一・五位) 交互に今の元結に通し下を止める。色の違つたむぎわらを輪切りにして、ひご(三糸)にて柄のきびがらの頭にさす。

二 等

粘土おしゑ

神奈川縣大磯幼稚園

K

S

材料

- 1、粘土
- 2、空箱(浅きもの或ひは箱の蓋)
- 3、石ころ 青竹 貝殻 木の葉 その他種々

製作の方法

適當な大きさのボール箱の蓋などに粘土をなるべくかた

く平につめる。その上に、石ころその他の材料で色々な繪を置き、位置の定まつたところで粘土の中に押し又はおさへつけて密着させる。そのままかげ干しにして乾燥させる。ボール箱は粘土の水分を吸收して自然に形ができるから、その時にそつと取りのぞく。はじめボール箱ならその一部をさき取り針金をまげてはめこんで置けば乾燥後それを柱等に掛けることが出来る。

子供への與へ方

先生がいくつかこしらへて置いたものを見せる。心掛け用意して置いた箱に粘土をつめさせる。石ころ、青竹(これは五糸、三糸、一糸ご種々の長さに切り、細く割り

石なき見付ける興味が少くない。これは龜の子の様な形だ。か變つた色の石、小さいもの丸いもの、ひろいのを棄てるのもおしく、ひろい集めたものがたくさんになつた。粘土製作の時、

まづはじめ、その子もぐたんぐたん平にたっくのが面白さうなので、箱に平につめる、こじもきつこ好きだらうと考へ、この二つを加へてこんなものをさせて見様と考へた。

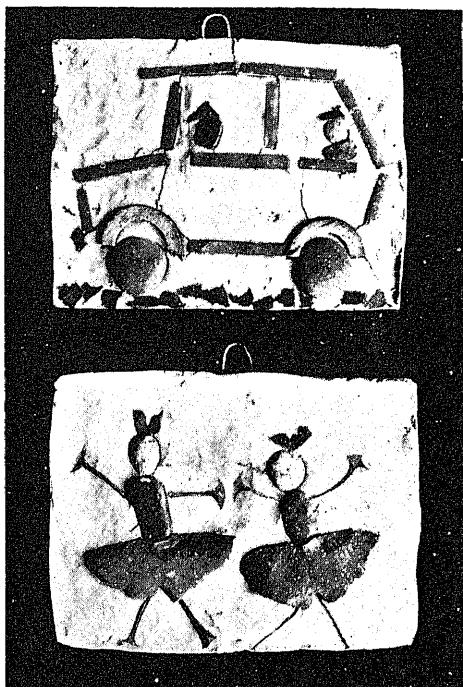
結果その他

又は半月形に丸い輪のまゝになつたもの) その他落葉等は四五人のグループになるとべく豊富に使用出来る様に用意する。

一度やつてもまづかつたら、又さり出して粘土をよくなでつけて又置き直しやり直す事が出来る。よく出来たのはそれをボールドの前なきに立てかけてならべて置く。

動機その他

海岸へなき出掛けの時に石をひろふ。色々面白い形の



子供は喜んでしたこゝへ石や貝殻への興味が増して、石ころその他隨分ひろい材料を用ひることが出来ること、こしらへたものは亂暴に取り扱はなければ割合に長く保存出来る。乾燥した後に不用になれば、だいて石ころ其他をのぞき又粘土の瓶の中に入れて再生出来る。色紙なきは水分で色がにじみ駄目であるが紅葉その他葉の類は大丈夫で、かへつてよい色調を出す。木の箱の蓋なきのしつかりしたのを使へばそのまま置けばよい。粘土をつめる前その上部に糸を通して置くと出来上

つたものを掛けて置くことが出来る。

注意

○かける針金をはめる際に、唯かうしたへのをさしこんだのでは弱いから、この様な形に先をまげてさしこみよく粘土をおしつけて乾かすと重さにたへる。最初は水分を含んで重いが乾くと軽くなる。

○粘土をあまりあつくつめるご出来上りが重いがあまりうすいごわれ易い。

二 等

雪だるま、雪兎

神奈川縣神愛幼稚園

三 浦 豊 子

雪だるま

材料　臺紙、綿、日本紙(橙、黒)　クレオン

- 1、子供に見本を見せ、自由にクレオンで、雪ダルマを書かせる。

- 2、書いた形に、綿を切らせ、臺紙に糊を付け今の綿をはる。
- 3、直徑一纏に書いておいた目を切らせ、自由にはらす、鼻口は自由に切らせ、はらす。

○石ころ等は半分以上粘土中にうまる様におしつける
○粘土をかたく指先で押しつけてつめるご以上
○ハンカチーフの箱なぎは三つに切り離してその一つひじつを箱の様に切り直して糸でしばるご小さくて適當の大きさになる。

注意さへすればそして怪我の心配がなければ硝子を使つて見るのも面白いご思ふ。

つたものを掛けて置くことが出来る。

注意

○かける針金をはめる際に、唯かうしたへのをさしこんだのでは弱いから、この様な形に先をまげてさしこみよく粘土をおしつけて乾かすと重さにたへる。最初は水分を含んで重いが乾くと軽くなる。

○粘土をあまりあつくつめるご出来上りが重いがあまりうすいごわれ易い。

二 等

雪だるま、雪兎

神奈川縣神愛幼稚園

三 浦 豊 子

雪だるま

材料　臺紙、綿、日本紙(橙、黒)　クレオン

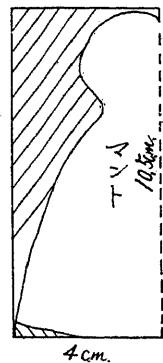
- 1、子供に見本を見せ、自由にクレオンで、雪ダルマを書かせる。

- 2、書いた形に、綿を切らせ、臺紙に糊を付け今の綿をはる。
- 3、直徑一纏に書いておいた目を切らせ、自由にはらす、鼻口は自由に切らせ、はらす。

○石ころ等は半分以上粘土中にうまる様におしつける
○粘土をかたく指先で押しつけてつめるご以上
○ハンカチーフの箱なぎは三つに切り離してその一つひじつを箱の様に切り直して糸でしばるご小さくて適當の大きさになる。

注意さへすればそして怪我の心配がなければ硝子を使つて見るのも面白いご思ふ。

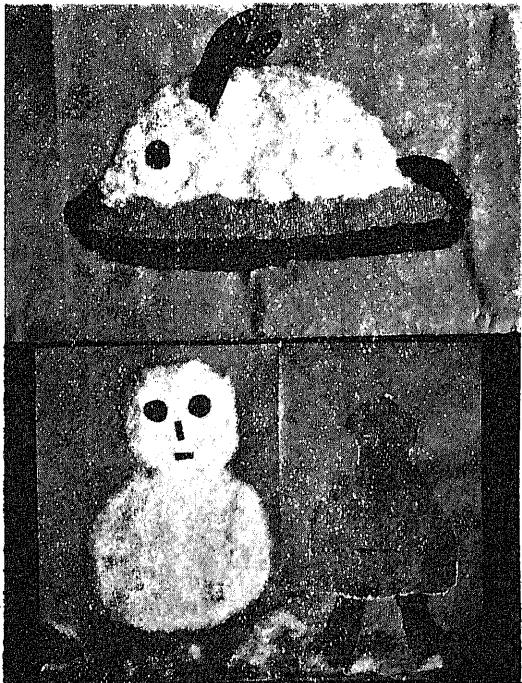
4. マントを着た子供を作る。



右の圖の如く、ちぎらせ、糊をはる前に適當な形におかせ、好み思つたら、糊を付け、はらせる。
5、クレオンで土を塗る。
6、土の上に、綿を好きな所にはらせる。

雪ウサギ

- 1、兎の胴を畫かせる
- 2、オボンを作る。圖を畫きちぎらせる
- 3、兎を畫いた上に糊を付ける
- 4、綿を兎の形に切り、はりつける
- 5、赤の目を付ける
- 6、耳を付ける。



時局の保育、時局の影響を各地幼稚園に聞く

大阪市立久寶幼稚園 藤本ツギ

(これは先月號に頂戴致す答でしたけれど、締切後到着いたしましたので心ならずもこゝに掲載させていただきました)

日支の戦は上御皇室の御稟威により下忠勇義烈なる我が將兵と
熱誠なる銃後の力によりまして今や敵首都南京を攻略し本日入場
式が舉行されました。我が國有史以來の出来事で世界史に輝かし
い記録を遺しました歎び何に譬へ様も御座いません。しかし乍ら

並に實行せる事について

1、一層教育の徹底を圖ること

此の度の戦は東洋平和の聖戦であります事と、今迄の處、否今後ど
雖戰捷國としての我が日本國であります事の一點から、國民の一人として覺悟せねばならぬ數々が御座います上に、直接には幼児
教育者の立場から遠き深き慮りと根強き實行の自ら必要なるものが御座います。此の意味に於きまして次の二題につきお答へする
光榮に浴しました事を深謝いたしますと共に、お答が折柄多忙の
爲めお恥しくも日限外になりました事をお詫びし且此の稿が如何
様に取り扱はれましても差支なき事を申添へて責めを察ぎ度いと
存じます。

各國の眼を一つに集めるかうした出来事が生じましたから、
事更めて申上げる迄もなく幼児教育は人間の基礎教育であります
して、日頃から其の重要性に鑑々、日々を懸命に努力精進して參つ
て居りますが、時局は從來丈けの心構へでは承知が出來なくなり
ました。困苦缺乏に堪え命を堵してお働き下さつて居る皇軍勇士
の事を憶ひますにつけ、又今度の事變の後に来るものを考へます
時、層一層心に絆りかけて戰ひの野にある覺悟を以て日々を送ら
ねばなりません。考へ様によつては、私共はかかる非常時に生れ合
ひました事を實に幸に存じます。無事泰平の世に生活いたして居
りますならば今日程眞剣な氣持にはなれないと存じます。世界の

今日程我が國百年の計を考へる事も御座いますまい。教へ子の人々が、如何か國家に役立つ人になります様に強健な心と身體を保持して辛抱強く雄々しく而も優しい大日本國民たらしめる爲に、此の芽生えの教育を立派に致し度いと心から希ふものあります。敵將蒋介石は、國民の基礎教育から排日の教育を行ひ今日まで二十年の日子を費しましたが其の効果しからず傳へ聞きますのに、今回の支那軍は日露戰爭以上の強きものが有るとの事で御座しまして、その戦ひの上に於て其の捕虜となりました者の態度に於て天晴れ敵乍らも感嘆に價するものが相當有る事を思ひます時、私共幼兒教育者は一年乃至三年の保育期間に於て其の效果はれん事を嘆くよりも其の積年の効を目さして假令相手は變りますとも、不斷の努力を續けて參り度い覺悟を持ちました。

2、御皇室の御仁慈

懼れ多くも上、御皇室の御仁慈にわたらせ給ふ事は今に始つた事では御座いませんが此の度こそ、皇室の有り難さと國民的意識を明瞭に持つ事は御座いません。御皇室の御仁慈を漏れなく傳へ聽かせ皇軍將士の勇武物語り、日本人である有り難さを曉げ乍ら感得させて度い。

3、国旗掲揚

毎朝園庭に國旗を掲げさせ國旗を通じて國體觀念を培養し

4、戰爭の美はしい場面を

戰争の慘らしい事は知らせない様に、戰は決して好むものでは無いが日支の交戦は事情已むなき結果で有つて、何處迄も東洋平和の基礎に立つた禍ひでありますから假令戰時中と申ましても、日支の美はしい場面を話題として耳に眼に觸れさせ度いと日々の紙上の剪抜きなどもかうした方面のものを取り扱つてゐます。

5、出征將士のお見送りと慰問袋

小學校と向ひ合つて園が建つて居りますから、學校から出立せられます將兵の御見送りを厚うし幼兒の手になりました製作物を慰問品として戰地又は陸軍病院に送り、戰へる人傷ける人をお慰めする事にも努めて居ります。

6、日の丸辨當と克己心

毎月三十日を日の丸辨當日と定め戰へる將兵への同情心を養ひ合はせて克己の一助と致して居ります。病氣の他は缺席せぬ事、通園は必ず步行のこと、容易に泣かぬ事等も其の一つであります。

7、自由遊び

事變以來自由遊びが時局色になりました。男兒は、戰闘帽を被り鐵砲を持ち土糞を作り、五六人寄れば整列して「前へ進め」と號令して遊ぶ様になりました。從つて手技等も兵士の持物例へば帽子

背囊等を喜んで作りますが、是等の遊戯手技により日本人としての氣魄とやさしさを體験させ亂暴に陥らぬ様注意を加へて居ります。

8、質素節約

は國家的徳性で御座いまして、殊に非常時には最も心すべき事で御座いますから、物資を粗末にせぬ様紙屑なども塵芥を別に處理させ、手技材料はなるべく廢物を利用する等、時局柄の事項で御座います。但發育の途次にあります幼兒として、營養不足に陥らせたり又其の反対に美食事を事としたり窮屈なる衣服を纏はしめて生長を害するが如き事なき様注意致し度いと思つて居ります。

8、保母の修養と實行

イ、幼兒保育を以て盡忠報國の誠を效す覺悟

口、時局に對する正しき認識を得べく講演會其の他時局に關する僅しには繰り合せ出席研究すること

9、家庭教育

家庭教育の改善母親教育の徹底に一段の力を注ぎ幼兒教育第一の體位向上を目標として栄養、運動、休息、睡眠、衣服等に至るまでは生活の凡てに再検討を行ひ度いと努力いたして居ります。

二、現在の時局が如何に子供に映じてゐるか、又それに就て感想

第一問 日本は今何處の國と戰争をしてゐますか

第二問 どちらが勝つてゐますか

第三問 戰争は好きですか、嫌ひですか

第四問 どんな事をしてあげたら、兵隊さんが喜ばれますか

以上の四問について問答を試みました。丁度南京陥落の時だったので、相手國を南京とお答へする者もありましたが、大部分支那と意識して居りました。露、英、米とお答への有つたのは、大人の話を聞きかちつて居ると申さねばなりません。研究に没頭して日露戰争を知らなかつた當時の學者風に知らぬと答へた者は、主として年少兒であります。

検査人員

支那 一一七人

獨逸 一人

南 京 八人

英 一人

滿 洲

二人

敵 一人

米

二人

知らぬ 一人

露 一人

八人

第二問に對しては確信を持つて全幼兒が日本とお答へしました。斯くお答が出來ます。日本國民としての有難さ……申す迄も御座いません。

第三問

好き 一二〇人

しこくする、冰砂糖、お金、煙草、よいもの

理由 勝つから 討つのが好き 日本刀さげるから

支那の黴菌殺すから面白い

嫌ひ 一八人

理由 恐いから 死ぬから 防空演習するから

知らぬ

どちらでもえゝ 二人

一人

嫌ひとお答へしたのは女兒の弱々し氣な者に多く、好きとお答へした大部分の幼兒も實際に戦争が好きと言ふのではなく戦争ゴッコを思つて居るので御座いませう。

然し乍ら時と場合によつては、將來と雖も今回の様に立派に戦ひ了へる日本人たらしめて置かねばならぬと思つて居ります。

第四問

慰問袋をあげる 六四人 靴下 五人

菓子 二四人

手拭

四人

手紙 八人

蘭ブラン石鹼

二人

繪を書いて 五人

繩帶

二人

色々のもの

西爪、御飯、牛肉、お見送りする、代りに行く、踊つてあげる、ハンカチ、花、枕、繪葉書、林檎、バインアップル、玩具、か

これは全く家庭の反映で、度々家庭から慰問袋を送られるので斯うしたお答が多く、近親者に出征軍人を有つて居る幼兒は何を置いてもお手紙をあげると眞剣に答へ、宿泊兵の有つた家庭の幼兒は御飯をあげる。パンをあげる、又は代りに行つてあげるといふ勇敢なのや、踊つてあげるといふ陽気なものもありました。

これから先戦ひが長く續けば、家庭に親戚に痛ましく氣の毒な方が殖えて來られませうが、幼兒にはなるべく斯うした事は避け、勇武同情友好と言つた積極方面に心を向け特に體位の向上につき全力を捧げ度いと思ひます。

再び豊田美雄子先生をお訪ねして

六二

一昨年の冬、九十二歳と手紙に書いて下さった頃から、もう一度お訪ねしてみたいと思ひ思ひ、夏にも行かれず、たうとう十二月になつてしまつた。お休みになるのを待つて、これも七十七歳になる塙といふ縁戚の老人を見舞ふのを機会に、水戸に向いたのである。豊田先生は、明治九年、わが國幼稚園の創設に直接あたられた最初の保母で、實際保育の開拓者である。水戸の志士藤田東湖先生の姪に當られる。

塙の老人はなか／＼のハイカラで外國仕込故若い頃から葉巻ばかり吸つてゐたといふ、和製ルーズベルトだと、新聞記者が云つたよ、と笑つてゐた位で、教育方面的會合などにも進んで出かけてゐたから、自然豊田先生ともお親しくしてゐた。私が行くとすぐ、ほう、英雄子さん——いつも老人はかうおよびしてゐる——を訪ねに來られたかなと云つた。近頃多少弱つて來たと聞いて、郵送ですむ用事を、實はこの人を見舞ひたくて、わざ／＼來たのであつたが、

私が來れば、豊田さんに行くものと思ひ込んでゐるから、はア、郵便屋さんの代りに一寸来てみたんですよと答へておいた。美雄子さんもこの頃はちつとも會に出られないし、私もかう足が不自由になつてからなるべく出かけないでゐるから、とんとその後の様子がわからぬが、どうぞよろしく云つて下さいと、ものゝ一丁と離れてゐない所に住んでゐる老人から老人へ、東京から行つた私が傳言を頼まれた。

古風な水戸の上市通りを歩いて、見覚えのある門をくぐり、四枚格子の廣々とした玄關をあけて、案内をこふた。先生様先生様とまめに傳いてゐた老婢が、どうしたかしらと思つてゐたのにこの日も出て來たのもなつかしく、先生も、眼がねを外し外しわざ／＼出むかへて下さつて、お部屋に通された。庭前の梅が盛りにはまだ少し早く

て、まことに御苦勞様に存じますと、まづ勞はれて、恐縮しながらも、さすがに先程のお方の御挨拶は及び難いものといふ感に打たれた。そして、幼稚園の皆様はお元氣でおつとめでいらつしやるが、食橋さんにも大分お目にかかるが御機嫌であらうが、こゝへも訪ねて下さつた事があるといふような事を云はれたので、私もいろいろ幼稚園の様子をお話した。「幼兒の教育」をお届けしてゐるので、それを楽しみに讀んでゐるとも云はれて、この頃の様子も相當に御承知のようであつた。

今度は決して昔の事はお尋ねしまい、思ひ出して頂くようなことは止めませうとつしんで居たけれど、つひうつかり、お年をきいてしまつた。もう四五日で九十四歳になります、斯うも生きるつもりはありませんでした、いつの間にか年をとつてしまつたのです。今は三十歳になる一人の孫の世話をするやら、されるやら、それが何よりの樂しみでと仰言つた時は、着ぶくれてお出での方、先生が、なんとも慈しみ深いよいおばあ様らしく、黄八丈の呑物がまことふさはしいとさへお見受けしたのであつ

十一

お目にかけさせうと巻き物を持つて立たれた。お手つだひをして、それを柱にかけて庭前の大梅を愛された、それを眺めて書き物をして居られるといふ圖で、私が義公を崇拜してゐますので、と附け加へられた。いふ物を貰ひた。

やがてお暇した、幼稚園の皆様に宜しく
と云はれた。この先生がどうぞいつ迄も御健
康在であるよう心に祈りつゝ御挨拶をし
て、塙の家に戻つて來た。そしてこゝの家
の人達に、今お目にかかるつて來た様子を悉
く傳へておいた。

かねゞの念願が届いて、先生も御健康
老人も案外元氣であつたので、郵便屋さん
のおつとめも無事にすんとまづ／＼よかつ
たゞ、安らかな氣持で、歸りの汽車に乗
つた時は冬の日の短い盛りどてもうとつぶ
つと暮れてしまつてゐた。

御健

保育實習科新卒業者

東京女子高等師範学校保育實習科は昭和十三年三月、左の二十四名の新卒業者を保育界に送り出さうとしてゐます。皆それより適當な働き場所を得て斯界の爲め心にその職に従事し度い希望にもえでるます。御採用を切望致します。

氏名	出身學校	生年月日
安室松増藤坂立竹田鈴諭島櫻小川笠柿香岩今今石石井 井岡田田花内中木訪村庭林村井内川本井澤川口 百本 茂千 た 由 義 美 敏合 貞清信幸惠潔春唉良づ芳信里と生滋フ智代 子信子ウ登江子江子子子子子子子子子よ子ミ惠子	名富熊神新東千東東愛岩崎秋兵東東東東東東東山第居 古山本奈鴻京葉京京知手玉田庫京京京京京形一留 屋縣川縣府縣府成縣縣縣縣女櫻女櫻府府雙縣東民 市立立縣立立立立立立立立立立立立立立立立立立立 立立立立立立立立立立立立立立立立立立立立立立立 立富第立新第安第高津盛柏秋第御高御高第第高山市立 第一山一小發五房五女島岡壁田一附女附女一五女形立上 一高高田田高高高高高高高高高高高高高高高高高 高女女原高女女女女女女女女女女女女女女女女女女 女高女女女女女女女女女女女女女女女女女女女女女 女	大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大 正正正正正正正正正正正正正正正正正正正正 八九九八九八九八九九九九九八八八八八九九八八九八 八年年年年年年年年年年年年年年年年年年年年年年 十二八五十三四八九十三一二六九七八一三三十三十 一一月月月月月月月月月月月月月月月月月月月 月月一五六六十十十十十月三十二三二二二二月三月十 三七日日日日七五三二二十一日八日日十二十二十二 十日 日日日日日日日日 日 日 日 日 日 日 日 日 日

可愛いゝ可愛いゝ幼兒畫の手拭

先月號からつゞいて各地各園の御様子を伺ひ、非常時に

於かれましても喜んでお納め下さつたのでした。

處しての保育の心は、こうも同じいものかと、一入感深く拜見いたしたわけでした。私共の幼稚園でもいろいろの事を致した中に、こんな事も致しました。それは、戦争にちなんだ繪を幼児に描かせ、その中から、陸海空又は戦勝にゆかりのある繪六種類を選び、之を手拭に染めさせたのでした。手拭になつて出来て見ましたところ、繪の時よりも一層ひき立つて、見事になりました。威風堂々支那沿海を睥睨する我が軍艦、敵のトーチカを占據して萬歳を連呼してゐる我が陸軍、地上部隊に呼應して敵に猛爆を加へる我が無敵空軍、扱ては、遙か支那大陸の北に南に行くところ可ならざるなき我軍の戦勝を祝つて、旗行列に、提灯行列に都をねり歩く民草の悦び等、等、子供相當の見聞の下に描かれたこれ等の繪は、私共をして飽くこと無からしめたのでございました。吾が園ではこの子供達のすさびを、出征將士の方々の陣中ひとときのおなぐさみにもならばと存じ、澤山染めさせて陸海軍に獻納いたしました。軍當局に

この手拭はまた他の所謂慰問品をも添へて、幼稚園關係の出征の方々（幼稚園の父兄の方、幼稚園の看護婦さん、園児の登園及び退散時交通整理に當つて下さつたお巡査さん）にもお送り致しました。又子供が時折描いた○○大將のお顔、○○入城、○○占據等云ふ幼兒畫をも添へて、これまたほんのおなぐさみにと、司令官の方々にも御送り申上げたのでございました。

それより御入手の方々からは御丁寧な御手紙を頂戴して幼稚園一同は感激いたして居ります。その中で何れも幼兒達の心のは入つて居る事を一入御よろこび下さつた事は、私共の大きいに本懐といいたした事でした。

とまれこの事變は持久戦には入つたと覺悟致さねばなりません。一時の感激に浸る事なく冷靜に達觀して日々の保育に當り度いと存じます。そして折ある毎に盡忠報國の氣魄を第二の國民達に吹き込め得たらと念じて止みません。

ハイディ

(第二回)

東京女子高等師範學校教授 津田芳雄譯

「しやうのない子だね。一體さういふ氣なんだら

う。さうして着物をぬいだんです」ミーデーテは腹立

たしさうに叫んだ。

「わたし、着物なんかいらぬんだもの。」

ハイディは一向平氣である。

「お馬鹿さんね。さうかしてわ」をばさんは叱るやうな困つたやうな口調で云つた。

「誰が降りて取つてくるの？ 半時間もかかるのに。ペーテル、あんた駆けつて行つて取つて來てよ。そこでぽかんと口を開けてゐないで。」

「あらあ、おそくなつちまつたんだ。」

ペーテルは両手をポケットに突つこんで、ハイディのをばさんが怒るのを聞いてゐたが、そこか

ら動かうともしなかつた。

「ほら、いゝものをあげるが」云つてデーテがきら／＼する白銅を出して見せる。ペーテルは

いきなり駆け出して、最短の近道をして見るく例の着物の小積の所まで行つて、それを持つて來た。不機嫌であつたデーテもさすがに約束の白銅

を渡しながら褒めてやつた。ペーテルは早速それをポケットにしまひこんで、にこり／＼喜んだ。そんな大金を持つことは滅多になかつたのである。

「同じ道だから、をばさんの所までその包を持つて行つてね」デーテはペーテルにさう云つて、山羊飼小屋の後から急に嶮しくなつた山道を登り出

した。ペーテルは直ぐに承知して左の小脇に包を抱え、右手に笞をふりながらデータの後に續いた。

するごハイディミ山羊達は嬉しさうにその側を跳んだりはねたりして登つて行つた。

一小時間も登つた頃彼等はアルムをぢさんの小屋の在る所に着いた。をぢさんの小屋は突き出た岩の上に立つてゐて、風に吹きさらしであるが、日當りは上々、それに下の谿は目に見わたされ

る。小屋の後には枝も延び放題の茂つた古い樅の木が三本あつて、その向ふは又險しい山になつてゐる。その低い方はまだ美しい草原や、樹木にお

ほはれてゐるが、段々ミ喬木だけミなり、上の方は裸岩の頂上に終つてゐる。をぢさんは小屋を背にして、谿を見おろすやうになつた所に腰掛をしつらへてゐるのであつたが、今それに腰を掛けて、煙管パイプをくはへ静かに下を見晴してゐる所であつた。するご突然、子供達だの、山羊だの、データだのが眼に入つて來た。やがてハイディミがまづ先に上つて來て、いきなりをぢさんの所へ行つて、

手をさし出しながら「おぢいさん今日は」と云ひた。

「どうしたのぢや。」

をぢさんはちよつと握手をしながらぶつきらぼうに云つて、しげりミハイディを眺めた。ハイディも臆せずをぢさんの白毛まじりの鬚だの眉毛だので數みたいな顔を珍らしさうに眺めた。そこで

ペーテルがペーテルミ一緒に登つて来て、

「をぢさん今日は。あなたの孫をつれて來ましたよ。赤ん坊の時しか見ていらつしやらないから、わからぬいくらゐでせう。」

「この山の上で、この子があれに何の用があるといふのだ」をぢさんは訊ねた。それからペーテルに向つて、「おまへ、そこに居るのか。さつさと山羊をつれて行かんか。今日はおそいぞ。おれのも、つれて行くんだぞ。」

ペーテルはをぢさんからにらまれて直ぐに云ふことをきいて姿を消してしまつた。データはそこで「今日からこの子はをぢさんの所で暮すのです。

わたしはもうこの四年間でわたしの義務は果した
と思ふわ。今度はをぢさんの番よ。」

「さうか。だが、この子がお前を追つてむづかつ
たり泣いたりし出したらどうする？」

「それはわたしの知らないこゝよ。わたしだつて

手一杯の所へ、赤ん坊のこの子を脊負はされたけ
れど、今までこぼさないで我慢してきただわ。今度
わたしは奉公に出るこゝになつたのでつれて來た
んだわ。この子に一番近いのはをぢさんでせう？
をぢさんが養へなかつたら、をぢさんの方で何こ
ともするがいゝわ。この子に間違が出來たらをぢ
さんの責任よ。をぢさんにはもう氣の咎めるこゝ
は澤山だらうけれどね。」

所で、デーテの方でも、果してこんなこゝをし
ていゝのか。氣が咎めないでもなかつた。それで
つい腹立まぎれに氣のないこゝまで云つてしまつ
た。デーテがこの最後の言葉を云ひ終るこゝ、をぢ
さんはすつゝ立上つて、デーテを睨みつけ、デ
ーテを思はず二歩後ひさりさしてから腕を突出

して命令するやうに云つた「さあ行つてしまへ。今
直ぐ行つてしまへ。一度さおれに顔を見せるな。」

デーテは二度云はれるまでもなく、「それではさ
ようなら。ハイディちゃんもさようなら」と云つて

直ぐに駆け出した。デルフリの村に着くまでは一
氣に駆け出た。何だか胸の中にくらくし
てゐる蒸氣機關にかりたてられる思ひであつた。
村に着くと又戸口からも窓からも質問の雨であ
る。「あの子はさうしたの？」「あの子はさうこにする
る？」

「アルムをささんの所よ。あの山の上だよ。前に
さう云つて置いたぢやないか。」

するこゝ女達は今度はデーテを悪く云ひ出した。

「どうしてあんた、そんなこゝが出来るの」「あん
な幼い子をアルムをぢさんの所へ残して來るなん
て」「可哀相だ！」

デーテは堪えきれなくなつて聲が聞えなくなる
所まで又駆けつて行つた。彼女は自分のしたこゝ
を考へて決して嬉しくはなかつた。お母さんが亡

くなる時に「この子を頼む」云はれてゐてみれば。けれども、お金を澤山稼いだらもつてあの子の爲になれるからと思つてみて自分の心をなだめた。それにこんなに驕いでゐる人達からはやがて遠く離れるのだからと思ふことは一つの慰めであつた。更にあんないゝ口にもう自由に就けることになつたといふことは彼女にさつて、より大きな喜であった。

一、山の上のおぢいさんの生活

データが見えなくなるとおぢいさんは腰掛に戻つて、黙つて地面を見つみながらしきりと煙草の煙をたてゝゐた。一方ハイディは珍らしいあたりの景色に見されてゐた。やがて家に建てかけた山羊小舎を見出して空つぽの中をのぞき込んだりした。ハイディは更に搜索を續けて家の後の樅の木の所へ來た。樅の木にはひゞく風が吹きつけてゐて、上方の枝はごうくへこたいした音を立てゝゐた。ハイディは暫く停つてそれを聽いてゐたが、その音がおだれるごと歩き出して、家の向

ふの角まで行き、それを廻つて結局又元のおぢいさんの所へ來た。見るごとおぢいさんはもとの通りの姿勢をしてゐる。ハイディはその眞前に行つて立つた。そして手をうしろに組んでおぢいさんをだつて眺めた。おぢいさんは顔をあげたがハイディはまだ身動きもしないで眺めてゐる。それでおぢいさんは「何が欲しいかね」とたづねた。

「おうちの中を見せて。」

「ねや、おいで。」

おぢいさんはやつて立上つて先に家の方へ進んで行つた。がその時

「着物の包を持つておいで。」

ごと云ふとハイディは躊躇もなく

「あんなもの、わだし、もういらない。」

ごと云ふ、おぢいさんは變なごと云ふと云つて振返つて見るごと、子供の黒目は「家中に何かあるかな」と云つた目つきで喜びに輝いてゐる。おぢいさんは「これは確かに馬鹿ぢやない」と思つた。そし

「もうしてあの着物はもういらないんだ？」

と尋ねた。

「わたし、細い軽い足をした山羊のやうに駆け廻りたいの。」

「そりや、さうしたければ、さうしていゝが、着物は持つておいで。戸棚に入れて置かなくちゃならんから。」

おぢいさんがさう云ふと、ハイディは云はれる

まゝにした。

家に入つて見るごとく、中は一階全部一間の相當大きな部屋になつてゐて、家具はテーブル一つに椅子一脚だけ。一方の隅にはおぢいさんのベットがあり、片一方には爐があつて、その上に大きな鍋が吊してある。向ふ側の壁には大きな戸がついてゐて、これが戸棚なのだつた。おぢいさんはそれを開けて見せるごとく、一番下の段には着物を吊したり、シャツやハンケチや靴下を棚の上に重ねたりしてあつた。次の段にはお皿や、コップやガラス器が置いてあり、又その上の棚には丸いパンや、

燻し肉、チーズなどが置いてあり、おぢいさんの着るもの、食べるもの全部がこの戸棚の中にしまつてあるのだった。ハイディは早速駆けよつて自分の着物の包をおぢいさんの着物の出来るだけ奥の方にしまひ込んだ。かうして自分の着物が容易に見つからぬやうにする積りなのだった。それから注意深く部屋の中を見廻しておぢいさんにきいて見た。

「おぢいさん、わたしはここに寝るの。」

「おじこにでも好きなところに。」

おぢいさんからかう云はれるごとくハイディは喜んだ。そして直ぐにそこへ寝たが一番好いが、部屋を隅から隅までしらべ始めた。やがておぢいさんのベットの傍の隅に梯子が壁に立てかけてあるのを見出した。それをのぼつて見るごとく上は屋根裏の枯草置場になつてゐて、いゝ匂のする枯草がいっぱい積んであり、一つある圓窓からは下の谷が真下に見えるのであつた。ハイディは大悦びで下のおぢいさんに叫んだ。

「おぢいさん、わたしこゝに寝るわ。あがつて来てござらん。さても素敵よ。」

「あー、あがらなくたつてわかるよ。」

おぢいさんが下からさう答へる。ハイディは

かさこそ頻りに何かしながら又叫んだ。

「わたし、今ベットを拵へてる所よ。だけだ。シーツを持つて来ておくれよ。シーツがベットに

は要るでせう。」

「はいよ。」

おぢいさんはさう云つて戸棚の中を探して、一枚の長い粗い羅紗を引出し。それを持つて屋根裏にあがつて見る。ハイディはもうすつかりベッドを揃えてゐた。しかも枕になる所には餘計に枯草を置いてその所を高くして居り、寝た時にはちようど圓窓から樂に外の景色が眺められるやうにしてゐた。

「これは上等ぢや。さあシーツを敷かう。だが待つてよ。」

かう云つておぢいさんは更に抱へ枯草を持つ

て来て、堅い床^{ユカ}の上の枯草の厚さを増してくれた。それからおぢいさんが重い粗い羅紗を枯草の上に

引張つたり、ハイディが長過ぎる所をたみ込んだりして一通りきちんとしたベットが出来上つた。ハイディはそれをちよつと眺めてゐたが

「ねえ、おぢさん、何か忘れたものがあるわ。」「何ぢやい。」

「掛布團よ。シーツミ掛布團の間に這入るのでせう。」

「さうぢや、だがその掛布團が無かつたら。」

「さう、ぢや、構はないわ、おぢいさん。枯草をもつて持つて来て、かぶつたらいゝから。」

ハイディは慰めるやうにさう云つて、枯草を運ばうとした。するおぢいさんが、

「ちよつとお待ち。」

「云つて、梯子を下りて自分のベットの所へ行つて、大きな厚い麻の袋をこつて上つて來た。」

「それ、枯草よりもいいだらう。」

ハイディは早速、それをベットの上に延べよう

「一生懸命引はつた。が、どうして子供の手に及ぶものでない。おぢいさんが手をかして、きちんとひろげられて見るこ如何にも、温かさうな寝床になつた。ハイディは嬉しさうにそれを眺めて、

「もう夜だつたらいいわ。今直ぐ寝たい。」

「云つた。

「それより、先に何が食べたがよからう。どうやらやね。」

ハイディは寝床のこゝで夢中になつてゐたのだが、食物のこゝを云はれてみると、急にお腹がすいてたまらなくなつた。ハイディは今朝早く長い暑い旅に立つ前に、パンと咖啡の朝食をこゝにたきりであつた。それでわけもなく賛成して「さう、わたしもそれがいいわ」と云つた。

おぢいさんはハイディを先にして屋根裏から下りるこゝ、爐の前に行つて大きな鍋を押しのけ、同じやうに鎖に吊した小さい湯沸ユツカシを引はり出した。それから爐の前の三脚腰掛に腰をおろして、火を赤く吹きたてた。湯沸は間もなく沸いて來た。そ

の間におぢいさんは長い金串にさしたチーズの大

ぎれを、くるく廻しながら火にあぶつてゐた。

ハイディは珍らしさうにおぢいさんのすることを眺めてゐたが、急に何か思ひついたらしく、戸棚の方へ駆けて行つて頻りにあちこち動いてゐた。

やがておぢいさんが立上つて湯壺とチーズを持つてテーブルの所へ來て見るこ、テーブルにはもうちやーんと丸いパン三枚の皿と二本のナイフがそれぐの位置に置いてあつた。

「あーえらいよ、よく氣がきくね。」

おぢいさんはチーズをパンに載せながら更に

「だ」がまだ何か足りないものがあるね。」

ハイディは湯壺が盛んに湯氣を立てゝるのを見て直ぐ戸棚へ駆けつけた。ちよいと見るこ小さいお椀だけ棚に残つてゐるやうだつたが、よく見ると、その奥にガラスのコップが二つあつた。ハイディはこの三つを持つて來てテーブルの上に置いた。

「よろしい、よく物が分つてゐるね。だが腰掛は

かうする?」

部屋にあるたつた一つの椅子にはおぢいさんが掛けてゐた。するごハイディは爐の所へ飛んで行つて例の三脚腰掛を持つて来て、それに掛けた。

「さあ、それでお前の掛けるものも出来た。が、ちよつと低過ぎるだらう。だが、わしの椅子をやつても、まだお前はテーブルには届くまい。まあいゝさ。先づ食べるこじぢや。さあ。」

かう云つておぢいさんは立上つてお椀にお乳をいつぱい注ぎ、それを自分の椅子の上に載せて、三脚腰掛に掛けてゐるハイディの前に押し出した。これでハイディの食卓は出来たわけ。それからまた、おぢいさんはパンの大きな切きチーズを持つて来て、おあがりと云つた。そしておぢいさんはテープルのはしに腰掛けて自分の食事をした。

ハイディは両手にお椀を持ってお乳を一いきに飲んでしまつた。それから「はーつ」と呼吸をしてお椀を置いた。

「お乳、おいしかつたね?」

「こんなおいしいお乳、飲んだこひはじめて。」「ぢや、もつこおあがり。」

おぢいさんはまた、ハイディのお椀にいつぱいお乳を注いでやつた。ハイディは焼けて柔らかになつたチーズをパンの切つけ、お乳とかはりばんこに飲んだり食べたりして、如何にも満足さうな顔であつた。食事がすんでおぢいさんは山羊小舎の手入れに出て行つた。ハイディはおぢいさんが先づ小舎を掃きだし、それから山羊の寝床を新しい藁を敷いたりするのを面白さうに眺めた。それからおぢいさんは吹き井戸の所へ行つて、長い圓い棒を三本。圓い板を一枚切り、その板に穴を開けて棒をはめ込んだ。たちまち魔法で出来たやうに、おぢいさんのよりずつと高い三本脚の腰掛が出来上つたのだった。ハイディは呆氣にこられてそれを眺めてゐた。

「わたしの腰掛よ。こんなに高いんだもの。すぐ

に出来つちまつたのねえ。」

ハイディは尙も感心してしまつてゐる様子。

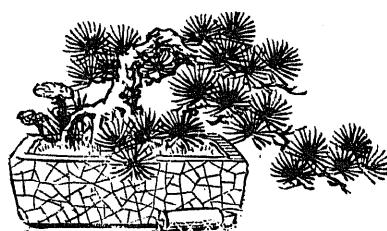
「この子は眼が見える。目のあり所が間違つちや
るない。」

おぢいさんはさう思ひながら、尙も家を廻つて、
そひこゝに釘を打つたり、戸を直したりした。ハ
イディはおぢいさんのあこについて廻つて、おぢ
いさんのすることを何んでも面白く思つた。

お断り

前回はハイデと書きました。原作の發音をよく正確
に寫す爲に、今回からハイディと致しました。

尚、ハイディの年齢は精々満五歳なのですから、數
へ年六歳そこそく御承知下さい。前回の「七歳そ
こそこそく」ごぶのを訂正致します。



再 版 四 版

日本幼稚園協会編 幼稚園談話集

菊版 三五〇頁
定價金壹圓五拾錢

郵 稅	市 地 方	內 地 方	北 海 道	金 六 錢
	朝 島	鮮	· 滿 洲	金 拾 五 錢

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編 系統的保育案の實際

定 價 金 壱 圓
送 料 金 六 錢

さきに發行せられた東京女子高等師範學校附屬幼稚園編「系統的保育案の實際」は非常の歡迎を受け、既に多數の方々により研究せられ又實施せられて居ります。就いてはその中に用ゐてあります談話につき、便宜一まとめにした書物がないかとの御要求が澤山ありますので、此の談話集を編纂發行致しました。右保育案を御使用の方は素より、そうでない方にも、幼稚園談話選集として極めて御便利のものと信じます。實際御使用のために定價も普通の市價の標準を離れて、出来るだけ廉價にいたしました。本會の趣旨のあるところをお汲み取りいたければ幸です。

幼 兒 の 教 育

一ヶ月	金 參 拾 五 錢
送 料	金 一 錢
一ヶ年	金 四 圓 貳 拾 錢
送 料	共

月 刊

幼兒教育に關する忠實なる月刊雑誌として、眞に全國幼稚園、託児所の方々のものたらんことを切望してゐます。

一保育案の實際は幼稚園必須の資料
一東京女子高等師範學校附屬幼稚園現行の保育の實際は各幼稚園好簡の参考
一待望の本書を全國幼稚園保母諸君に勧む

○定價及郵稅を添へ本會宛直接御註文下さい。

發 行 所 日 本 幼 稚 園 協 會

東京市小石川區大塚町卅五番地
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
一七二六番地
六番地

お子様の歓ぶ今月の手技用品

並に表簿類

◇虎の贈物——後藤牧星先生新案の厚紙細工の本年に因んだ虎、
クリオングで彩色して貼合せます。その他壁掛け用孔雀箱、風車等

◇繪馬額——厚紙で作った繪馬、クリオノン貼紙等でお子様御自身が意匠とする大歓迎の手技用品。

◇菱形——赤白草三色の菱餅を重ねたやうな厚紙臺紙に、縮緬摺紙で難を折つて貼ります。十枚金二十錢

◇屏風形——雛祭又はお人形遊用金屏風の華麗なもの、之に貼紙の櫻其他を以てお子様方に美事な意匠ができます。
十枚 金四十錢

◇出席カード 武井武雄畫伯揮毫の愉快な美しい
カード、之に毎日夫々貼紙を貼つて出席と共に

美しい繪に完成される仕組、家庭との通信欄、幼兒發育標準表も添へた美事なもの、

◇保育證書　堅緻な良質紙に文字を墨、周圍輪廓を金刷と優雅な色刷にした新圖案のものとなり、姓名年月日を書き入れるやうになつてゐます。御園名入は二月末日迄に御注文、無名ならば即時にお間に合ひます。

一〇〇枚 圓名入 金四圓五十錢
五〇枚 圓名入 金三圓
無名一枚 金六錢

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
毎月一回十五日發行

昭和十三年二月十五日發行



食官ルレベーレフ 社會式株

番二六六三(38)話電・二町保神・田神・京東 社本
番七二八三
番八三九一(24)話電・五町後備・區東・阪大 所張出

定價三十五錢